

学 校

河川基金  
助成事業実施の手引き

学校部門

平成 28 年 4 月

公益財団法人 河川財団

(URL : <http://www.kasenseibikikin.jp/grant/index.html>)



## 目 次

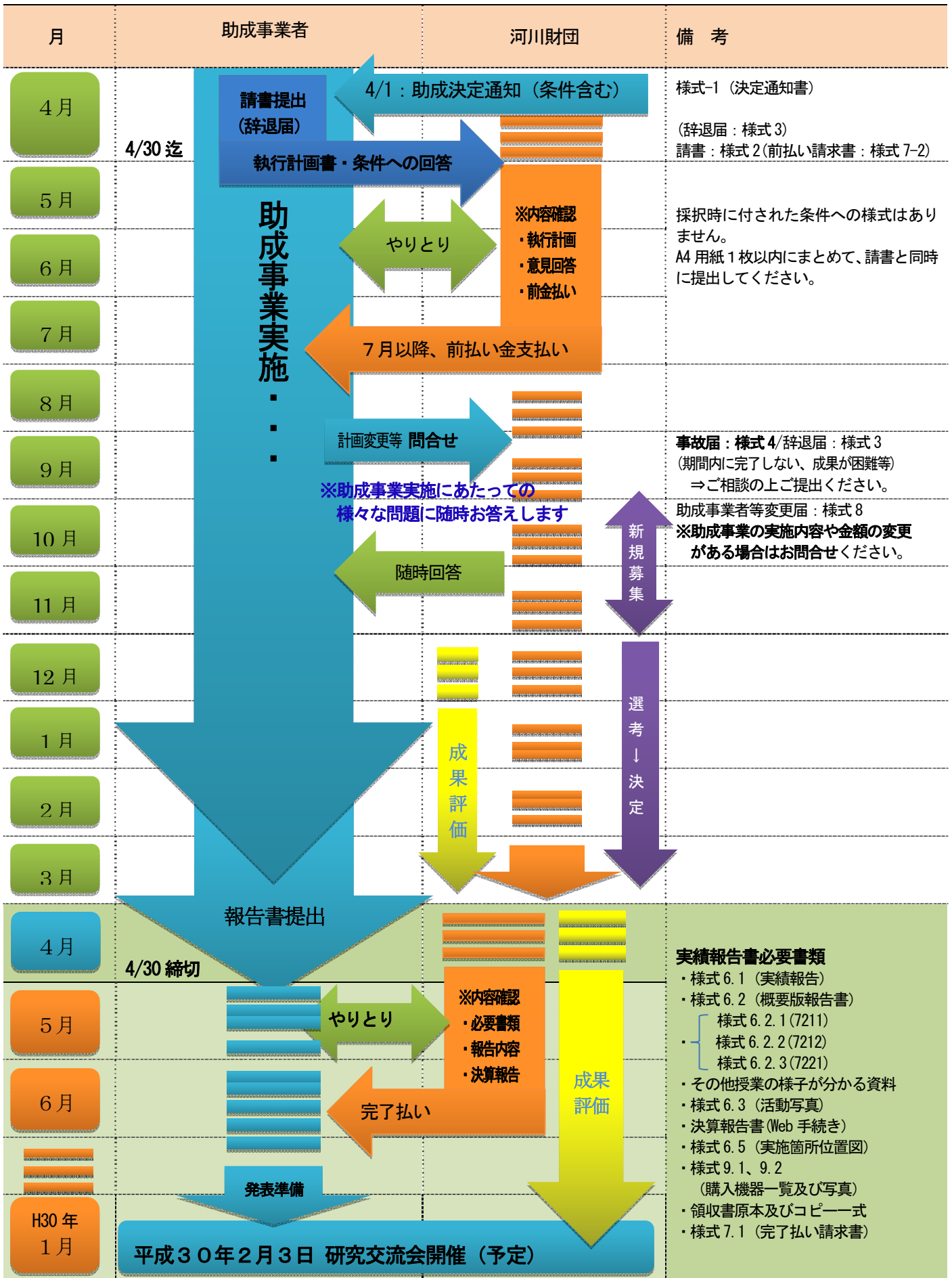
1. 河川基金助成事業の手続フロー（学校部門）	1
2. 実施に際しての依頼事項等	2
2.1 共通事項	2
2.2 学校部門	3
3. 助成事業の実績報告について	4
3.1 助成事業の実績報告書の構成	4
3.1.1 幼稚園・保育所・認定こども園等に対する助成（7111）	4
3.1.2 小・中・高等学校、特別支援学校等に対する助成（7211・7212・7221）	5
1）教育活動計画助成＜スタートアップ＞	5
2）教育活動計画助成＜アドバンス＞	5
3）調査・研究助成	6
3.2 成果報告書の作成（調査・研究助成(7221)のみ）	7
3.3 概要版報告書の作成（様式 6.2）	9
3.4 助成金に関する決算報告書	10
3.5 実施箇所位置図（様式 6.5）	11
3.6 河川基金による購入機器、物品一覧表及び写真の提出（様式 9.1、9.2）	11
4. 提出書類および助成金の支払いについて	12
4.1 助成事業実施に際しての提出書類について	12
4.2 前金払い	12
4.3 助成事業完了後の助成金の支払い（完了払い）	12
5. 助成金の交付決定の取り消し等について	14
5.1 助成の取り消し	14
5.2 助成金の返還	14
5.3 加算金	14
6. 様式集：学校部門	15
7. 記入例集：学校部門	39
8. 助成事業でよくある質問	67
9. 実績報告書等の提出および問合せ先	71

（参考）河川整備基金助成規程

河川基金ロゴマーク表示例



# 1. 河川基金助成事業の手続きフロー（学校部門）



※問合せ先: 子どもの水辺サポートセンター (整備基金担当) / TEL: 03-5847-8303 / E-mail: [kikin-toi@kasen.or.jp](mailto:kikin-toi@kasen.or.jp)  
「河川基金 Web 手続きサービス」: <https://kikinshinsei.kasen.or.jp/webSinsei/users/login>

## 2. 実施に際しての依頼事項等

### 2.1 共通事項

#### (1) 河川基金助成事業 Web 手続きサービスでのご提出をお願いします

URL: <https://kikinshinsei.kasen.or.jp/webSinsei/users/login>

平成 27 年度より、河川基金の諸手続きを、申請から採択、実績報告書の提出迄、一部を除いてすべてオンラインでできる「Web 手続きサービス」を開始しました。平成 28 年度の助成事業のご報告は原則この「Web 手続きサービス」でお願いいたします。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、上記サービスへのアクセスは、昨年申請の際にお使いになった ID とパスワードをご利用ください。詳細は「Web 手続きサービス」マニュアルをご覧ください。

#### ◇Web 手続きサービスのメリット

##### ①手続きに必要な書類のペーパーレス化

オンラインで手続きをしていただく場合、報告書はもとより、必要添付書類についても電子データをアップロードするだけで、紙で出力してお送りいただく必要がありません。

(印鑑の必要な一部の書類は、電子データをアップロードしていただくと共に、郵送もしていただきます。)

##### ◇郵送が必要な書類一覧

- ・ 請書 (様式 2)
- ・ 河川基金助成事業状況 (中間) 報告 (様式 5-1)
- ・ 河川基金助成事業実績 (完了) 報告書 (様式 6-1)
- ・ 請求書 (完了払い 様式 7-1) (前金払い 様式 7-2)
- ・ 助成金を大学等へ直接振り込むことについての確認書 (様式 7-3)
- ・ 領収書 (原本) (委任経理の場合は、経理担当者の署名・捺印した「委任経理金寄付金別受払簿」)
- ・ その他 (辞退届、変更届、事故届)

##### ②申請時に登録された情報が常に保持されます。

以下の情報は、各手続きに必要な入力画面に反映されます。

- ・ 住所、電話番号、代表者名等の基本情報
- ・ 申請時に記入した申請金額とその内訳

##### ③河川基金に関わる領収書が一括で管理できます。

- ・ 日々発生する領収書を、その都度、費目を選んで登録して、領収書にその領収書番号をメモしておくだけで、決算報告書の様式に随時反映されます。
- ・ 最終的な決算報告時には、領収書を領収書番号ごとに A4 用紙に貼りつけてお送りいただくだけです。(詳細は「Web 手続きサービス」マニュアル参照)

##### ④手続きに必要な提出書類等をいつでもダウンロードして利用できます。

##### ⑤過去の申請情報も一括で管理できます。

これまでの申請状況、申請内容をいつでもオンラインで確認できるため、新たに申請する際に、発展的な計画を検討するための参考になると思います。

##### ⑥事務局とのやり取りもスムーズ

決算報告等の書類の作成時には、事務局も同じ画面を確認することができます。電話やメールでのやり取りで、質問等にも随時お答えしながら作成のお手伝いができます。

※また、河川基金のホームページに皆様にお寄せいただいている情報発信のページ「水辺に集まれ!」「みんなの川自慢」等への投稿も、平成 28 年度中に一元化する予定です。皆様のご活用を期待しております。

#### (2) 助成事業の成果は、研究者・研究機関部門については、平成 13 年度～平成 26 年度、川づくり団体部門については、平成 18 年度～平成 26 年度までの公開可能なすべての報告書と平成 13 年度～平成 17 年度までの優秀成果の報告書が当財団のホームページで閲覧が可能となっています。

河川基金の助成を受けられた多くの研究者・団体等の方々による研究、活動成果を、年度、分野、氏名、キーワード等により、検索・閲覧が可能ですのでご活用ください。

下記のアドレスにアクセスして閲覧することができます。

(<http://www.kasen.or.jp/seibikikin/admit.asp>)

#### (3) 河川基金の諸手続きを行う場合、それに必要となる様式等については、当財団のホームページからダウンロードが可能ですので、助成事業の手続きとして必要な段階でご利用をお願いします。

(<http://www.kasenseibikikin.jp/grant/index.html>)

- (4) 個人情報の取り扱いについては、「個人情報の保護に関する法律」の法令および関係法令を遵守し、助成事業の運営のみに使用し、それ以外の目的には使用しません。  
 なお、助成事業者においても成果報告書の作成に際しては、当財団ホームページ等に公開されることを前提に、写真、図表、その他、著作権等の取り扱いに十分注意するとともに、個人情報の取り扱いにも十分配慮していただくようお願いします。
- (5) 助成事業の前払いについては、これまで随時受け付けておりましたが、今後は請求期間を4月30日までの1か月間とさせていただきます。ご希望の方は請求書(様式7・2)を請書の提出時に一緒にご提出をお願いします。それ以降のご請求は受け付けられません。また、請求されても支払いができない場合及び支払いが7月以降になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- (6) 過去の助成研究成果を広く活用できるように当財団のホームページで一般に公開しています。キーワードから過去の助成研究成果を全文検索できるシステムとなっておりますが、検索をより効率的にできるようにシステムを改良しました。このため、検索を効率的に実施できるキーワードを設定しましたので様式6・2に記入するようご協力をお願いします。キーワードの一覧は本冊子のP72を参照して下さい。
- (7) 実績報告書の提出が遅れた場合、助成の取り消しや、次回の採択の対象から外れることがありますので、ご注意ください。

※川での体験活動や調査をする際には安全を最優先するために、必ず、ライフジャケットを着用してください。またNPO法人川に学ぶ体験活動協議会(RAC)では河川基金の助成を受けて、「川という自然環境下での体験活動に適したライフジャケット」の安全基準等に関してガイドラインを設けました。河川基金を活用して新規に購入される場合は、このガイドラインに基づいたライフジャケットを購入してください。

詳細は<http://www.rac.gr.jp/pfd/syuhin.html>をご覧ください。

#### ※助成事業で実施するイベントについて

助成事業で実施するイベントは、原則として「無料」で実施してください。  
 ただし、参加者にイベントの実費(昼食代等)負担を求めることは可能です。

## 2.2 学校部門

- (1) 教材、副読本、ビデオ、展示物等の成果物、パンフレット等には、河川基金の助成を受けた旨と、この手引きの巻末に示す河川基金のロゴマークを必ず表示してください。  
 助成事業による事業活動で、これらの表示がない場合には、採択を取り消す場合があります。

表示例：「この〇〇〇〇は、公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています。」

英文表示例：「This is supported by the River Fund of The River Foundation , Japan.」

文字の大きさは、A1版ポスターの場合は24ポイント以上、チラシの場合は12ポイント以上の太字ゴシックとして、最上段又は最下段の視認性が良い位置に表示して下さい。あわせて、巻末に示す河川基金のロゴマークを掲載してください。

- ※ 河川基金助成事業により購入したすべての機器、物品(消耗品は除く)には、採択通知に同封した河川基金のロゴマークのシールを貼りつけてください。またシールの貼付状況をすべて写真撮影して提出してください。枚数が不足する場合は事務局にご連絡ください。
- (2) 助成事業にかかわる授業等が終了後は「水辺からのレポート(活動報告)」のページにご報告をお願いします。上記ホームページ掲載手続きについて、ご不明な点がございましたら、事務局までお問合せください。掲載のお手伝いをさせていただきます。
- (3) 助成事業の成果をできるだけ多くの方々に共有の財産として周知を図り、広く活用していただくとともに、助成事業の一層の充実を図ることを目的として「河川教育研究交流会」を毎年1月頃開催しています。皆様、発表等にご協力ください。  
 交流会の開催に際しましては、開催案内の通知をいたしますので、極力ご参加をお願いします。また、上記交流会への参加に限り、1助成事業につき1名分の交通費の半額(最大2万円)を別途支給しますので参加申し込みの際にお知らせ下さい。

### 3. 助成事業の実績報告について

助成事業の実績報告書としては、助成事業が完了したときの成果報告書（7221 調査・研究助成のみ）とともに、助成事業の要旨を記載した概要版報告書、活動報告書及び写真、実施箇所位置図の提出等を提出していただきます。また、機器、物品等を購入した場合は、その一覧表とシールの貼付状況の分かる写真を整理したワードのデータ（様式 9.1 び 9.2）を提出してください。

これらの原稿は、Web 手続きサービスの「報告書アップロード画面」から、図のように、助成番号と書類名をファイル名として保存したもの（WORD/Windows 版）をアップロードしてください。

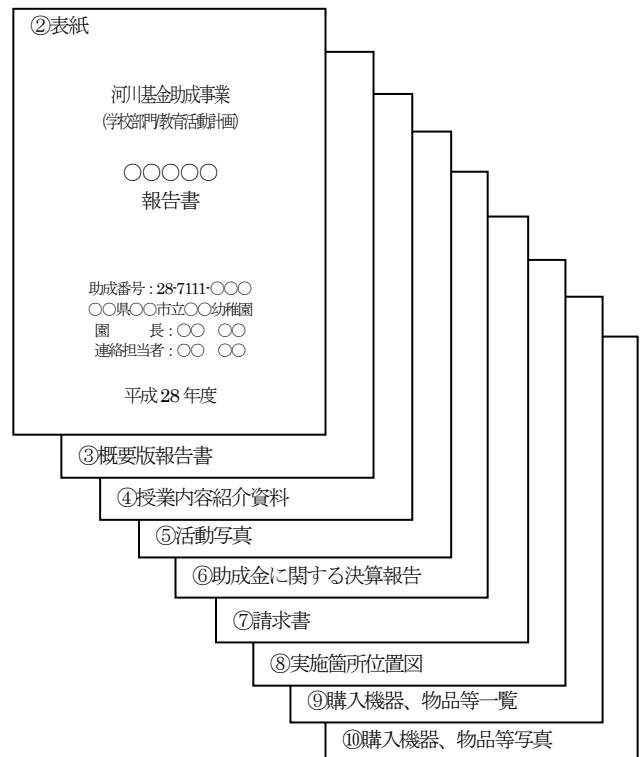


#### 3.1 助成事業の実績報告書の構成

##### 3.1.1 幼稚園・保育所・認定こども園等に対する助成（7111）

助成事業（テーマ番号 7111）の実績報告での必要書類は以下のようになります。

- ① 河川基金助成事業実績（完了）報告（様式 6.1）
- ② 表紙  
表紙は、p.8 の見本を参考にしてください。  
（明朝 22、20 および 12 ポイント）
- ③ 概要版報告書（様式 6.2）  
概要版報告書は、活動の目的、概要、成果、今後の課題等がわかるように 1 ページにまとめたものです。書式、編集サイズ、記載項目、内容、記載例等については「3.3 概要版報告書の作成」および様式 6.2 を参照してください。
- ④ 授業内容紹介資料：適宜  
必要に応じて、実施内容の理解の参考となる資料、教材等を授業内容紹介資料として添付してください。
- ⑤ 活動写真（様式 6.3）  
活動内容がわかる写真（著作権およびプライバシーに関して問題のないもの）にコメントを記述したものを適宜添付してください。
- ⑥ 助成金に関する決算報告書  
（Web 手続きサービスで作成）
- ⑦ 請求書（様式 7・1）  
（全額前金払いの場合は不要）
- ⑧ 実施箇所位置図（様式 6.5）  
縮尺 1/50 万～1/100 万程度の位置図を添付してください。
- ⑨ 購入機器、物品等一覧表（様式 9.1）
- ⑩ 購入機器、物品等写真（様式 9.2）



河川基金により機器や物品を購入された場合は、その名称、金額等を一覧表（様式 9.1）に、シールの貼付状況がわかる写真を様式 9.2 に整理して合わせて提出してください。

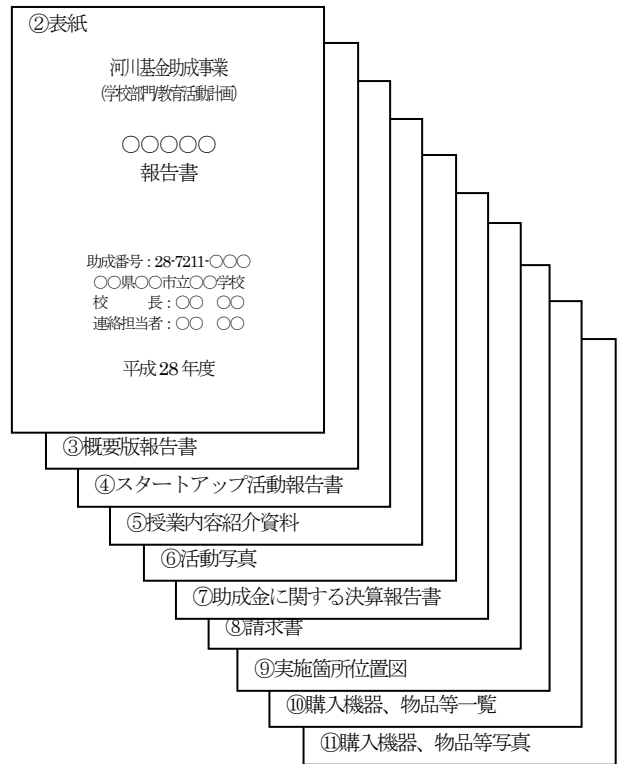


### 3.1.2 小・中・高等学校、特別支援学校等に対する助成（7211・7212・7221）

#### 1) 教育活動計画助成<スタートアップ>

助成事業（テーマ番号 7211）の実績報告での必要書類は以下のようになります。

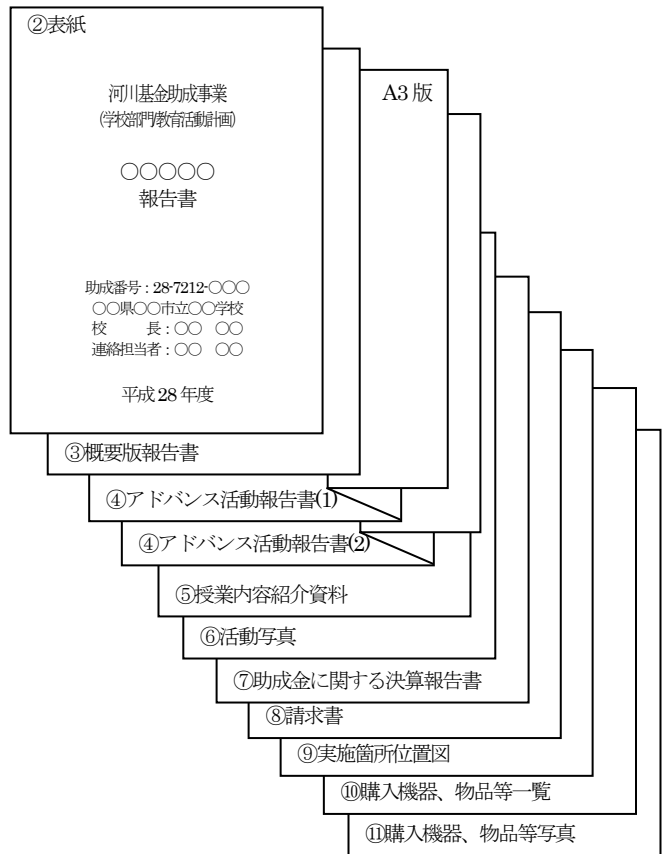
- ①河川基金助成事業実績（完了）報告（様式 6.1）
- ②表紙  
表紙は、p.8 の見本を参考にしてください。  
（明朝 22、20 および 12 ポイント）
- ③概要版報告書（様式 6.2）  
概要版報告書は、活動の目的、概要、成果、今後の課題等がわかるように 1 ページにまとめたものです。書式、編集サイズ、記載項目、内容、記載例等については「3.3 概要版報告書の作成」および様式 6.2 を参照してください。
- ④スタートアップ活動報告書（様式 6.2.1）  
申請時に提出した「スタートアップ活動計画書」をもとに実施版を作成し、それに加え、実際の活動状況の写真等も添付してまとめてください。
- ⑤授業内容紹介資料：適宜  
p.42～p.51 に示す「スタートアップ活動報告および授業内容紹介資料の記載例」などを参考に、実施内容の理解の参考となる資料、教材等を授業内容紹介資料として添付してください。
- ⑥活動写真（様式 6.3）  
活動内容がわかる写真（著作権およびプライバシーに関して問題のないもの）にコメントを記述したものを適宜添付してください。
- ⑦助成金に関する決算報告書（Web 手続きサービスで作成）
- ⑧請求書（様式 7・1、全額前金払いの場合は不要）
- ⑨実施箇所位置図（様式 6.5）  
縮尺 1/50 万～1/100 万程度の位置図を添付してください。
- ⑩購入機器、物品等一覧表（様式 9.1）
- ⑪購入機器、物品等写真（様式 9.2）  
河川基金により機器や物品を購入された場合は、その名称、金額等を一覧表（様式 9.1）に、シールの貼付状況がわかる写真を様式 9.2 に整理して合わせて提出してください。



#### 2) 教育活動計画助成<アドバンス>

助成事業（テーマ番号 7212）の実績報告での必要書類は以下のようになります。

- ② 河川基金助成事業実績（完了）報告（様式 6.1）
- ②表紙  
表紙は、p.8 の見本を参考にしてください。（明朝 22、20 および 12 ポイント）
- ③概要版報告書（様式 6.2）  
概要版報告書は、活動の目的、概要、成果、今後の課題等がわかるように 1 ページにまとめたものです。書式、編集サイズ、記載項目、内容、記載例等については「3.3 概要版報告書の作成」および様式 6.2 を参照してください。



④アドバンス活動報告書（様式 6.2.2）

申請時に提出した「アドバンス活動計画書」に基づき、実施計画を【No.1】に記載してください。【No.2】には、実際に行った「単元構成（活動の様子を記述し、写真を添付してもよい）」、「成果と課題」を記載してください。

⑤ 業内容紹介資料：適宜

P53～p.59 に示す「アドバンス 授業内容紹介資料の記載例」などを参考に、実施内容の理解の参考となる資料、教材等を授業内容紹介資料として添付してください。

⑥活動写真（様式 6.3）

活動内容がわかる写真（著作権およびプライバシーに関して問題のないもの）にコメントを記述したものを適宜添付してください。

⑦助成金に関する決算報告書（Web 手続きサービスで作成）

⑧請求書（様式 7・1、全額前金払いの場合は不要）

⑨実施箇所位置図（様式 6.5）

縮尺 1/50 万～1/100 万程度の位置図を添付してください。

⑩購入機器、物品等一覧表（様式 9.1）

⑪購入機器、物品等写真（様式 9.2）

河川基金により機器や物品を購入された場合は、その名称、金額等を一覧表（様式 9.1）に、シールの貼付状況がわかる写真を様式 9.2 に整理して合わせて提出してください。

### 3) 調査・研究助成

助成事業（テーマ番号 7221）の実績報告での必要書類は以下のようになります。

② 河川基金助成事業実績(完了)報告(様式 6.1)

②表紙

表紙は、p.8 の見本を参考にしてください。  
(明朝 22、20 および 12 ポイント)

③成果報告書：20 ページ程度

④概要版報告書（様式 6.2）

概要版報告書は、活動の目的、概要、成果、今後の課題等がわかるように 1 ページにまとめたものです。書式、編集サイズ、記載項目、内容、記載例等については「3.3 概要版報告書の作成」および様式 6.2 を参照してください。

⑤調査・研究助成活動報告書（様式 6.2.3）

申請時に提出した「活動計画書」に基づき、実施計画を【No.1】に記載してください。【No.2】には、実際に行った「単元構成（活動の様子を記述し、写真を添付してもよい）」、「成果と課題」を記載してください。

⑥授業内容紹介資料：適宜

p.61～p.67 に示す「調査・研究助成 授業内容紹介資料の記載例」などを参考に、実施内容の理解の参考となる資料、教材等を授業内容紹介資料として添付してください。

⑦活動写真（様式 6.3）

活動内容がわかる写真（著作権およびプライバシーに関して問題のないもの）にコメントを記述したものを適宜添付してください。

⑧助成金に関する決算報告書一式（Web 手続きサービスで作成）

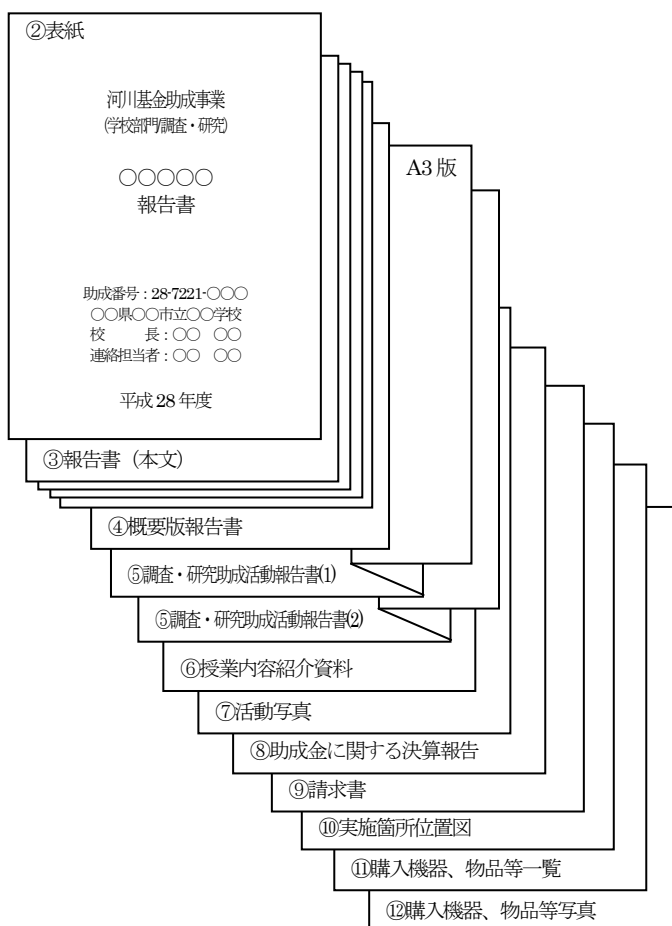
⑨請求書（様式 7・1、全額前金払いの場合は不要）

⑩実施箇所位置図（様式 6.5）

縮尺 1/50 万～1/100 万程度の位置図を添付してください。

⑪購入機器、物品等一覧表（様式 9.1）

⑫購入機器、物品等写真（様式 9.2）



河川基金により機器や物品を購入された場合は、その名称、金額等を一覧表（様式 9.1）に、シールの貼付状況がわかる写真を様式 9.2 に整理して合わせて提出してください。

### 3.2. 成果報告書の作成【調査・研究助成（7221）のみ】

成果報告書（A4版）は、表紙（表紙見本を参照）をつけ、20 ページ程度にとりまとめたものを提出してください。なお、電子媒体に保存する場合は、章ごとでなく報告書すべてを一つのファイルにとりまとめて下さい。

助成事業の成果は、できるだけ多くの方々に共有の財産として広く活用していただくとともに、助成事業の一層の充実とデータベース検索サービスの向上を図ることを目的としています。このため、平成 19 年度より成果報告書については、様式および編集・文字サイズ等の書式の統一化を図っています。

下記の要領で成果報告書の作成をお願いします。

(1) 外国語の報告書は受け付けませんので日本語の報告書（A4 版）にしてください。

(2) ページ数

報告書のページ数は、20 ページ程度でお願いします（写真、図、表を含む）。

(3) ワードプロソフト

原稿の編集は、WORD（Windows 版）の使用をお願いします。

(4) 字体、文字サイズ等

報告書の見出し、図、表、写真のキャプションはゴシック、本文は明朝（10.5 ポイント）とします。

① 編集サイズ…A4 版、余白：上下左右とも 25mm、字数：40 字×40 行

② 文字サイズ…表紙：22 ポイントおよび 20、12 ポイント（明朝）

章（大課題）：12 ポイント（ゴシック）

節（中課題）、項（小課題）：10.5 ポイント（ゴシック）

本文：10.5 ポイント（明朝）

③ 原稿は当用漢字を用い、新かなづかいとします。数字はアラビア数字を用い、句読点（。）（、）は 1 字となります。

(5) 見出し例

「章」 1. 事業の概要

「節」 2.1 活動の目的

「項」 3.1.1 活動状況

(1) 河川清掃活動

① 開催日及び活動場所

の順となります。

章の前後は 1 行あけ、節以降の見出しの前は 1 行あけてください。

(6) 図、表、数式の番号のとり方

例) 図 4.5 2016 年の夏期の画像

↑↑

章 番号

上の例は、第 4 章の 5 番目の図という意味です。

(7) 表紙、本文の書式等記載例の見本を次ページに示しましたので参考にしてください。

河川基金助成事業 ←22 ポイント  
(学校部門/調査・研究) ←20 ポイント

「〇〇川の〇〇〇〇〇による  
河川教育の実践的研究」  
報告書 ←20 ポイント

助成番号：28 - 7221 - 〇〇

〇〇県〇〇市立〇〇小学校

校 長 〇〇 〇〇

連絡担当者 〇〇 〇〇

←12 ポイント

平成 28 年度 ←20 ポイント

### 3.3 概要版報告書の作成（様式6.2）

(1) 概要版報告書は、キーワード、対象児童、対象河川名、年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ、活動内容、安全対策に関する課題、今後の課題・展開等がわかるように1ページにまとめたものです（1ページ厳守です。様式6.2および概要版報告書の記載例を参照）。

(2) 概要版報告書の書式、文字サイズ等は次のとおりです。

- ・文字サイズ…明朝 10.5 ポイント、記載項目のみゴシック、表題（助成事業名）は 明朝 12 ポイント
- ・編集サイズ…A4版、余白：上下左右とも 20mm、字数：45字×45行

(3) 概要版報告書の記載項目について

① [過去の助成実績]

過去に当財団の助成を受けられた場合には、助成番号、助成事業名を記入してください。また、過去に複数の助成を受けている場合は、最新の助成番号、助成事業名を記入してください。

② [キーワード]

児童生徒の活動を適切に表現する主なキーワードを10文字以内で、3つ以上5つ以内で記入してください。

- ・「キーワード例」：歴史・文化、水害、水利用、構造物（橋や堰など）、水質、魚類、鳥類、植物、水生生物、ピクトープ、貴重種、清掃美化、インタビュー、文献調査、外部講師、電話問合せ、ポスター等作成、ホームページ作成、世代間交流、上下流交流など。

③ [対象児童生徒]

活動の対象とした児童生徒の学年、参加人数を記載例を参考にご記入ください。

④ [対象河川名]

活動の対象とした河川の名称をご記入ください。

⑤ [活動場所の指定状況]

活動場所が以下の項目で指定されている場合は、記入してください。

- ・「子どもの水辺」：地域における子どもたちの「川に学ぶ」体験活動等の充実を図るため、「子どもの水辺協議会」によって「子どもの水辺サポートセンター」に登録されています。
- ・「水辺の楽校」：「子どもの水辺」のうち、河川管理者が整備を行っている水辺。  
詳しくは、「子どもの水辺サポートセンター」(TEL.03-5847-8307：河川教育担当)まで問い合わせください。

⑥ [年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ]

貴学校の年間学習計画における本助成事業の位置づけについては、テーマ、ねらい、評価の観点、活動時期の概要を箇条書きでご記入ください。

⑦ [活動形態]

活動形態については、記載例を参考に記入してください。各教科学習で活動した場合は、（ ）内に教科名の記入もしてください。

⑧ [活動時間]

上記の活動形態に要した時間について、それぞれ記入してください。

⑨ [支援者等]

本活動の支援者について、記載例を参考に記入してください。また、支援概要については、支援者の支援内容を箇条書きで記入してください。

⑩ [活動成果]

活動成果については、本活動の成果を発表した場合、発表形態を記載例を参考にご記入ください。学校内部以外に対外的な発表をした場合は、（ ）内に発表会の開催名称をご記入ください。

本活動における成果作品は、概要を箇条書きで記入してください。

⑪ [安全対策に関する課題と対応]

ライフジャケットの着用、事前の下見、外部協力による当日の安全管理体制など、川や水辺での安全対策に関する課題と対応について必ずご記入ください。

⑫ [活動の成果と今後の展開]

ご担当教諭の視点から、子どもたちに見られた変化や保護者のご意見などを活動の成果としてご記入下さい。

合わせて、活動を継続していくための取組みや次年度以降の抱負など、今後の展開についてご記入ください。

⑬ [活動内容と実施時期]

データベースに登録するキーワードを本冊子 P72 の一覧表を参照して下さい。

3.4 助成金に関する決算報告書 (Web 手続きサービスで作成)

- (1) 決算報告書は、Web 手続きサービスの「決算報告金額入力」ボタンにより助成金に関する決算報告書を提出して下さい。
- (2) 助成金で経費と認めることのできるものは、助成事業の決定を受けた日から翌年 3 月末まで実施期間内に発生した債務に限ります。
- (3) 領収書等は、費用項目ごとに A4 版用紙に整理して、スキャナー等で PDF または JPG にしてアップロードすると共に、原本を事務局まで郵送して下さい。なお、交通費については、「交通費入力」ボタンで日付と領収書整理番号、利用交通機関名その他 (ガソリン代あるいは高速通行料等) および区間、料金等を記載した「交通費内訳明細」を作成して、照合できるようにして下さい。

なお、公共交通機関を利用した場合で、領収書の入手が困難な性質のもので、その費用が 1,000 円未満のものについては領収書の添付は必ずしも必要ありません。

[別紙:交通費内訳明細書]

No	領収書整理番号 日付	利用交通機関名 その他	区 間	出発地 到着地	金 額	行先・目的等
1						
2						
3						
交通費合計					〇〇〇	

- (4) Web 手続きサービスをご利用して、「領収書入力」ボタンで「領収書内訳明細」を作成して下さい。領収書を入力すると、「決算報告書」に費目ごとに反映されます。領収書は費用項目ごと Web 手続きサービスで表示された領収書整理番号を記入して A4 版用紙に貼り付けたものを添付して下さい。

[領収書内訳明細書]記載例

費目番号 1

費目:人件費

内容:〇〇川流域 現地調査

費目 No	番号	領収書整理番号 日 付	内 容	金 額	備 考
1	1	1 — 1 2015/5/5	体験活動補助アルバイト代(4 月分) 〇〇 〇〇様(4 日分)	20,000 円	
1	2	1 — 2 2015/6/5	資料整理アルバイト代(5 月分) 〇〇 〇〇様(5 日分)	25,000 円	
1	3	1 — 3 2015/7/5	体験活動補助アルバイト代(6 月分) 〇〇 〇〇様(4 日分)	20,000 円	
				円	
小計				65,000 円	

- (5) 「人件費」の支出に関する決算において認められるのは、金融機関への振込を証明する資料（金融機関印のある振込依頼書または通帳の引き落とし部分のコピー）のみです。領収書による支出は、認めませんのでご注意ください。なお、人件費の内訳が分かる資料を別途提出してください（一式計上ではなく、単価×人数等の資料の提出が必要となります）

※近年、領収書に記名のないものや支払いの相手方に人件費が支払われていないと推測されるケースが散見されるようになってきました。こうした実態を踏まえて助成金を適正に執行していただくための対応ですのでご理解、ご協力をお願いいたします。

- (6) 人件費を除くその他の領収書は、記名・捺印してあるものをお願いします。ただし、銀行送金および普通為替の場合は、銀行振込書および受領書にて領収書に代えることができます。
- (7) 未払い金がある場合には、請求書、契約書をもって領収書に代えることができます。
- (8) 領収書等は、原本を郵送していただき、それを PDF 又は JPG にしたものの報告書アップロード画面よりアップロードしてください。なお領収書原本は審査終了後「河川基金助成事業費用」と捺印の上、「河川基金助成事業完了に伴う額の確定通知書」をお送りする際、返却いたします。（領収書等のコピーはお手元にも一式お持ちください。後日財団から問合せをさせていただくことがございます）
- (9) 決算報告書の作成にあたっては、参考資料（P13）の助成経費一覧表を参照してください。
- (10) 学校部門において、下記に該当する案件は、助成対象外となりますので予めご了承ください。
- ・総合学習助成事業の本来の趣旨「河川を題材とした活動」、「河川への理解に資する活動」「学校の教育計画に位置づけられている活動」等にそぐわない内容である場合
  - ・総合学習助成事業そのものを一括して外部に委託していると判断できる場合
- (11) 決算報告書の合計金額は、助成金決定額と必ずしも同額ではなく、若干上回っても結構です。この場合、その差額は助成事業者が別途経費等で負担していただいたものとみなします。ただし、決算報告書は「助成対象金額」とそれを越える部分を分かり易く表記して、領収書等は「助成対象金額」に関係する部分のみ添付してください。助成対象金額に関係ない費用の領収書等及びそのコピーの添付は必要ありません。なお、全額前金払いを受けた場合において、この全額の前金払い金額より決算報告書の合計金額が少ない場合は、その差額を返納していただくこととなります。（助成金の支払いについては、後述の 4.2、4.3 を参照してください）。

### 3.5 実施箇所位置図（様式 6.5）

全国の「どのような地域」、「どのような河川」で総合的な学習が実施されているかをより明確にするため、これらの活動が行われている位置図（縮尺 1/50 万～1/100 万程度）を添付して下さい。

活動等が数ヶ所に及ぶ場合は、代表的な箇所を 2ヶ所程度選定し位置図を作成して下さい。

### 3.6 河川基金による購入機器、物品一覧表及び写真の提出（様式 9.1， 9.2）

河川基金助成事業により機器、物品等を購入した場合には、すべてに採択通知に同封した河川基金のロゴマークのシールを貼りつけてください。また、一覧表(様式9.1)に整理して、シールの貼付状況をすべて写真撮影して様式9.2に整理して提出してください。シールの枚数が不足する場合は同様のシール（30mm角以上）を作成して貼付してください。

## 4. 提出書類および助成金の支払いについて

### 4.1 助成事業実施に際しての提出書類について

- (1) 応募申請された助成事業について、採択が決定しましたら河川基金助成事業決定通知書（様式 1）を送付します。承諾した場合は、指定の期日まで（採択通知に同封する資料を確認して下さい）に請書（様式 2）及び助成金の執行計画（Web 手続きサービス）を提出していただきます。また、上記決定通知書の「助成決定の条件」の欄に指摘事項が記載されていた場合には、その条件に対する回答を A4 版用紙一枚程度にまとめて、Web 手続きサービスの添付資料アップロード画面から提出してください。なお、工期、助成金額、その他の事情により、事業の遂行が困難な場合は、辞退届（様式 3）を提出していただきます。
- (2) 助成事業が予定の期間内に完了しない場合や、助成事業の遂行に重大な支障を及ぼすような事故が発生した時、助成事業が当初予定した成果を得ることができなくなった場合は、遅滞なく事故等届（様式 4）を提出し、財団の指示を受けてください。
- (3) 助成事業者名、助成事業者の住所、連絡担当者等が変更となった場合も、遅滞なく助成事業者等変更届（様式 8）の提出をお願いします。

### 4.2 前金払い

助成金の交付は、助成事業完了後における提出書類の審査および請求に基づき完了払いを原則とします。ただし、状況により前金払いとすることができます。学校部門の場合、全額前払いが可能です。

前金払いは、助成事業の遂行上必要な場合に、請求書（前金払い）（様式 7・2）により請求してください。審査のうえ指定の口座に振り込みます。**請書提出と同時に前金請求を行ってください。**

前金払いは、全額前払いが可能です。

### 4.3 助成事業完了後の助成金の支払い（完了払い）

完了払いは、助成事業完了後 30 日以内、又は翌年の 4 月 30 日までに提出していただく実績報告書等を審査してから、請求に基づき指定の口座に振り込みます。



## 助成経費一覧表

費目	説明	備考
(1) 人件費	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査・研究活動に必要な資料整理、実験、測定、実態調査等の研究補助作業者に対する人件費</li> <li>事業に必要な補助作業者に対する人件費</li> </ul>	臨時雇用者に対する人件費で、事業を実施する団体関係者への人件費は認められません
(2) 資料・印刷費	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍、論文、地図、航空写真等の購入費</li> <li>調査票・集計表等の印刷費、書類の複写費</li> <li>書類・資料の印刷代</li> <li>ポスター・チラシの作成・印刷</li> </ul>	
(3) 旅費・交通費	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査・会議・打合せ等の出張に伴う交通費、宿泊費（日当は除く）</li> <li>自家用車（燃料等）、レンタカー借上げ代、有料道路通行料金</li> <li>当財団が東京で開催する各部門の成果発表会及び、各地域で開催される、財団主催または協力の「地域説明会」への参加のための交通費、宿泊費1名分</li> </ul>	学校部門については、当財団が開催する「成果発表会」や「地域説明会」への参加のための旅費等は助成金からの支出はできません。その代り、その1名分の半額（最大2万円）を助成金とは別に支給します。
(4) 協力者謝金費	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同研究者以外の外部協力者からの助言、協力に対する謝金</li> <li>外部講師、外部協力者等への謝金</li> </ul>	実施する団体関係者への謝金は認められません。
(5) 会議費	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議、研修会、講習会開催費用等、会場借り上げ費用、看板設置費、会場の運営・機器使用料、記録（速記料、テープ起こし）</li> </ul>	
(7) 委託費	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査・観測、実験、試料採取、測量、アンケート調査、データ整理等、研究または事業の一部を外部に委託する費用</li> </ul>	助成対象金額の50%を超えない範囲
(8) 器具・備品費	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン （1台10万円以上の機種を購入予定の場合は申請時に理由書を提出してください。事後の購入はできません）</li> <li>カメラ、望遠鏡、顕微鏡等光学機器 （1台5万円以上の機種を購入予定の場合は申請時に理由書を提出してください。事後の購入はできません）</li> <li>その他、1点5万円以上の機器、機材 （器具の取り付け費も含めることができます）</li> </ul>	助成対象金額の50%を超えない範囲としてください。また、高額な測定機器、情報機器等高額な機器については、レンタルの活用をの工夫をお願いします。
(9) リース費	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピューター及びソフト使用料等の経費</li> <li>草刈機等のレンタル費用</li> <li>Eポート、カヌー、ライフジャケット等のレンタル費用</li> </ul>	
(10) 通信・運搬費	<ul style="list-style-type: none"> <li>切手代、封筒代、宅配便代等</li> <li>資材・機器運搬費用等</li> </ul>	
(11) 消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般文具用品等、用紙代、試薬</li> <li>試料等実験のための資材、水質調査用器材（パックテスト）</li> <li>データ保存用電子媒体、電池等</li> <li>その他、1点5万円未満の器具・作業用具等</li> </ul>	
(12) 広報費	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報誌、交流新聞発行等の経費</li> <li>ホームページ作成費</li> <li>その他、広告・宣伝費用</li> </ul>	河川基金による助成を受けた活動のみが対象
(13) 施設等維持経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>不動産借用費、光熱水料、維持費等 （研究施設の一般管理費は認められません）</li> <li>インターネット、モバイル通信等、通信設備接続費用</li> </ul>	研究者・研究機関部門及び新設川づくり団体自立支援助成が対象
(14) 雑費	<ul style="list-style-type: none"> <li>損害保険料</li> <li>その他各費目に該当しない経費</li> </ul>	

※次の経費は認められません。

- ・申請者や共同研究者、申請団体の構成員が経営する企業、団体への委託費、人件費等の支出
- ・飲食費、弁当代、会議などの食事代、親睦会参加費
- ・組織の運営管理に必要な一般管理費(新設川づくり団体自立支援助成を除く)、経理事務手数料
- ・研究成果の発表を目的として行う報告書の印刷、図書の刊行費用(学術図書出版助成を除く)
- ・河川基金の助成を受けた活動以外の、団体独自の活動報告や会報等の印刷、製本費
- ・助成を受けた団体から他の団体への助成(再助成)
- ・外国への出張旅費・交通費、外国での調査・研究に必要な経費  
(「国内外で発生した甚大な水害等の緊急調査」による海外渡航を除く)
- ・他の団体等が開催する学会、会議、イベントの参加費用(旅費・交通費を含む)

## 5. 助成金の交付決定の取り消し等について

### 5.1 助成の取り消し(河川整備基金助成規程第12条)

助成事業者が助成金の他の用途への使用をし、その他助成事業に関して助成の決定の内容又はこれに付した条件に違反したときは、助成の決定の全部又は一部を取り消す場合があります。また、助成事業について交付すべき助成金の額の確定があった後においても、助成の決定の全部又は一部を取り消す場合があります。

### 5.2 助成金の返還(河川整備基金助成規程第13条)

助成金の交付の決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消に係る部分に関し、すでに助成金が交付されているときは、期限を定めて、その返還を請求することになります。

### 5.3 加算金(河川整備基金助成規程第14条)

- (1)助成の決定の取消に関し、助成金の返還を請求したときは、助成事業者から助成金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、当該助成金の額(その一部を納付した場合におけるその後の期間については、既納額を控除した額)につき年10.95%の割合で計算した加算金を納付することになります。
- (2)(1)の年当たりの割合は、閏年の日を含む期間についても、365日当たりの割合となります。
- (3)加算金を納付する場合において、助成事業の納付した金額が返還すべき助成金の額に達するまでは、その納付金額は、まず当該返還をすべき助成金の額に充てられたものとなります。

## 6. 様 式 集

学校部門



## 河川基金助成事業決定通知書

河財発第                    号  
平成    年    月    日

殿

公益財団法人 河川財団  
理 事 長 関 克己

助成番号 :

助成事業名 :

平成    年    月    日付で助成申請のあった上記助成事業について、  
金            千円の助成をすることに決定したので通知します。

ご承諾の場合は、別添様式により、請書（様式2）を平成    年    月    日までに提出して  
ください。

なお、事業実施にあたっては、別添の「河川基金助成事業 実施の手引き」に留意してくださ  
い。

# 請 書

平成 年 月 日

公益財団法人 河川財団  
理 事 長 関 克己 殿

助成事業者

住 所 〒

ふりがな  
学校名

ふりがな  
学校長氏名

印

連絡担当者

TEL

助成番号 :

助成事業名 :

助成金決定額 : 円

上記の助成事業については、決定通知書の内容を遵守し、申請書、「河川基金助成事業 実施の手引き」等にしたがって誠実に実施いたします。

# 辞 退 届

平成 年 月 日

公益財団法人 河川財団

理 事 長 関 克己 殿

助成事業者

住 所 〒

ふりがな  
学校名

ふりがな  
学校長氏名

印

連絡担当者

TEL

助成番号 :

助成事業名 :

辞退理由 :

# 事故等届

平成 年 月 日

公益財団法人 河川財団

理事長 関 克己 殿

助成事業者

住 所 〒

ふりがな  
学校名

ふりがな  
学校長氏名

⑩

連絡担当者

TEL

助成番号 :

助成事業名 :

届出内容 :



# 河川基金助成事業実績（完了）報告

[学校部門]

平成 年 月 日

公益財団法人 河川財団

理事長 関 克己 殿

助成事業者

住 所 〒

ふりがな  
学校名

ふりがな  
学校長氏名

印

連絡担当者

TEL

助成番号 :

助成事業名 :

上記の助成事業は、平成 年 月 日に完了いたしましたので、下記書類を添えて報告いたします。

記

1. 成果報告書（概要版報告書・実施個所位置図含む）
2. 助成金に関する決算報告書

助成番号	助成事業名		学校名			
校長名	担当教諭名					
過去の助成実績	なし あり [助成番号： 助成事業名： ]					
キーワード						
対象児童生徒	高校生 ( 年 名) 中学生 ( 年 名) 小学生 ( 年 名)					
対象河川名	活動場所の指定状況		なし 子どもの水辺 水辺の楽校			
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ : ねらい : 評価の観点 : 活動時期の予定 :						
活動形態	総合的な 学習の時間	各教科学習 ( )	クラブ活動 ( )	学校行事	その他 ( )	合計
上記の 活動時間数	時間	時間	時間	時間	時間	時間
支援者等 (複数記入可)						
外部小学校 の支援	保護者 の支援	外部中学校の 支援	外部高校 の支援	外部大学 の支援	市民団体 の支援	専門家等の個人の 支援
河川管理者 の支援	行政機関の支援 ・博物館 ・歴史資料館 ・ビジターセンター 等		関係団体等の支援 ・漁協 ・農協		企業 の支援	その他
支援概要						
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位	学年単位	学校全体			
	対外発表 ( )					
安全対策に関する課題						
今後の課題・展開						
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録 するキーワード	学校部門	教育活動	系		月	
			系		月	

※データベースに登録するキーワードは、本冊子P. 72の表から代表的なものを2つ記入して下さい。

スタートアップ活動報告書

1.助成事業			
学校名		助成番号	28-7211-
2. 実施する教科・領域			
3.実施日時			
4.単元目標			
5.学年 人数			
6.実施場所			
<b>活動指導計画 第 学年 科「 」 全 時</b>			
<b>第1次</b>	学習活動	○時間	
<b>第2次</b>	学習活動	○時間	
<b>第3次</b>	学習活動	○時間	

注) 川で学習を行う場合は、時数の横に「川の活動」と記述する。



アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名		学校名				助成番号		28-7212-			
2.単元名											
3.目標											
4.実施学年 人数											
5.場所											
6.単元構想 (総時間数)											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
○学年	[ ]			[ ]			[ ]				
	[ ]			[ ]			[ ]				
主な学習活動	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
評価項目	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	学校名	助成番号	28-7212-
---------	-----	------	----------

7.実際に行った単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
○ 学 年	[ ]			[ ]			[ ]				
	[ ]			[ ]			[ ]				
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

8.成果と課題

調査・研究助成 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名		学校名				助成番号		28-7221-			
2.単元名											
3.目標											
4.実施学年 人数											
5.場所											
6.単元構想 (総時間数)											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
○学年	[ ]			[ ]			[ ]				
	[ ]			[ ]			[ ]				
主な学習活動	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
評価項目	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

調査・研究助成 活動報告書

(NO. 2)

1.助成事業名	学校名	助成番号	28-7221-
---------	-----	------	----------

7.実際に行った単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
○ 学 年	[ ]			[ ]			[ ]				
	[ ]			[ ]			[ ]				
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

8.成果と課題



様式 6.3

[学校部門]

[活動写真]

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名

写 真

フィールド：  
日付：  
コメント：

写 真

フィールド：  
日付：  
コメント：

写 真

フィールド：  
日付：  
コメント：

注) 写真は5～6枚程度 (枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

様式 6.5

[学校部門]

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
		(所属・氏名(申請者名)を必ず記入してください)
助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所	
	<p>※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。</p> <p>※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。</p> <p>(縮尺は1/50万～1/100万程度)</p>	

# 請 求 書 (完了払い)

¥

---

ただし、「 (助成事業名) 」代金

助成番号：

上記のとおり請求します。

平成 年 月 日

助成事業者

住 所 〒

ふりがな

学校名

ふりがな

学校長氏名

⑩

TEL

公益財団法人 河川財団

理 事 長 関 克 己 殿

---

※通帳の「銀行名」「支店名」、「口座名義」、「口座番号」が記載してあるページのコピーを貼付

## 請 求 書 (前金払い)

〒

---

ただし、「 (助成事業名) 」代金

助成番号：

上記のとおり請求します。

平成 年 月 日

助成事業者

住 所 〒

ふりがな

学校名

ふりがな

学校長氏名

Ⓜ

TEL

公益財団法人 河川財団

理 事 長 関 克 己 殿

---

※通帳の「銀行名」「支店名」、「口座名義」、「口座番号」が記載してあるページのコピーを貼付

前金払い請求の締め切りは4月30日までとします。

河川基金助成事業者等変更届  
〔学校部門〕

平成 年 月 日

公益財団法人 河川財団  
理 事 長 関 克己 殿

助成事業者

住 所 〒

学校名

学校長氏名

㊞

連絡担当者

TEL

助成番号 :

助成事業名 :

上記の助成事業は、平成 年 月 日に助成事業者（学校長名）、連絡担当者が変更  
となりましたので報告いたします。

・助成事業者（申請者）

変更前	ふりがな 学校長氏名	
変更後	ふりがな 学校長氏名	

・連絡担当者

変更前	連絡担当者	ふりがな 氏 名			
		職 名		担当教科	
		TEL		FAX	
		E-mail			
変更後	連絡担当者	ふりがな 氏 名			
		職 名		担当教科	
		TEL		FAX	
		E-mail			





河川基金による購入機器、物品等 写真

助成番号	助成事業名		学校名・学校長氏名
写真 番号	遠景（全体）	詳細（ロゴマークの貼付状況が判読できるもの）	



## 7. 記入例


学校部門



助成番号		助成事業名			学校名		
28-〇〇-〇〇		〇〇川水辺の体験活動			〇〇県〇〇市立〇〇小学校		
校長名		〇〇 〇〇		担当教諭名		〇〇 〇〇	
過去の助成実績		なし あり [助成番号： 助成事業名： ]					
キーワード		「歴史・文化」、「水生生物」、「世代間交流」					
対象児童生徒		高校生 ( 年 名) 中学生 ( 年 名) 小学生 (4年 176名) 小学生 (3年 50名)					
対象河川名		〇〇川	活動場所の指定状況		なし <u>子どもの水辺</u> 水辺の楽校		
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ							
<p>テーマ : 身近な環境について調べよう</p> <p>ねらい : 身近な環境に関心をもって、守るよう方法を考えたり、行動できるようにする</p> <p>評価の観点 : 自ら課題を見いだせるか、成果をまとめ発信する力、目標に向かい行動できる力 等</p> <p>活動時期の予定 : 第1学期 4、5、6、7、9月</p>							
活動形態		<u>総合的な学習の時間</u>	<u>各教科学習</u> ( 社会 )	クラブ活動 ( )	学校行事	その他 ( )	合計
上記の活動時間数		40 時間	10 時間	時間	時間	時間	50 時間
支援者等（複数記入可）							
外部小学校の支援	保護者の支援	外部中学校の支援	外部高校の支援	外部大学の支援	<u>市民団体の支援</u>	専門家等の個人の支援	
河川管理者の支援	行政機関の支援 ・博物館 ・歴史資料館 ・ビジターセンター 等		関係団体等の支援 ・漁協 ・農協		企業の支援	その他	
支援概要		・〇〇川を拠点に活動している市民団体の方を講師に生物調査を実施した。					
活動成果		発表形態			成果作品		
		<u>学級単位</u>	学年単位	学校全体	壁新聞を学習発表会で展示		
		<u>対外発表</u> (〇〇川市民フォーラム)					
安全対策に関する課題							
<ul style="list-style-type: none"> <li>川での体験学習時に、事前に天気予報の確認をしていなかった。</li> <li>水辺の観察の際に、ライフジャケットの着用が徹底できなかった。</li> </ul>							
今後の課題・展開							
<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる環境学習の普及として、地域の小学校間同士の交流や情報の共有が必要と感じた。</li> <li>今回の活動が環境に関心を向けさせるきっかけとなった。更に環境への理解を深めるために、継続的な活動となるように検討していきたい。</li> </ul>							
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）							
		部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録するキーワード		学校部門	教育活動	生物調査系	水生昆虫	5～6月	
				文化・歴史系	歴史	9月	

※データベースに登録するキーワードは、本冊子P.72の表から代表的なものを2つ記入して下さい。

スタートアップコース活動報告書

1.助成事業名			
学校名	〇〇市立〇〇小学校	助成番号	28-7211-
2.実施する教科・領域	総合的な学習の時間		
3.実施日時	平成〇〇年4月〇〇日～平成〇〇年7月〇〇日		
4.単元の目標	〇〇川に生息している生き物を調査することを通して、〇〇川に興味をもち、〇〇川に愛着を持つことができる。		
5.学年 人数	第3学年 60人		
6.実施場所	〇〇川周辺		
<b>活動指導計画 第3学年 理科「〇〇川で生き物調査」 全19時</b>			
<b>第1次</b>	学習活動	生き物調査の計画を立てよう	3時間
	<p>〇〇川の生き物調査をするための課題を設定したり、活動計画を立てたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を初めて経験する児童にとって探究的な学習のスタイルが身に付くよう、課題設定の時間をしっかりと取るようにする。</li> <li>〇〇川を3つの範囲に分け、学校前あたりを中流、学校よりも上流方向、学校より下流方向とし、調査の計画を立てさせる。</li> <li>地域の〇〇川の生物に詳しい方とあらかじめ連携をとっておき児童の必要に応じてGTとして招聘できるようにしておく。</li> </ul>		
<b>第2次</b>	学習活動	〇〇川の生き物を探そう	12時間 川の活動
	<p>〇〇川へ出かけて生き物調査を行い、調査範囲ごとに見られる生き物の種類や住んでいる環境など比較しながら、環境によって生息する生物が異なることに気付けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川での活動となるため、児童の安全確保のため、ライフジャケットを着用させる。 (事前に子どもの水辺サポートセンターに貸し出し依頼を行っておく。)</li> <li>下見を行い、採取場所に危険箇所はないか把握しておく。</li> <li>児童の課題をあらかじめ把握しておき、必要に応じて図鑑や底生生物一覧表などを準備しておく。</li> <li>川の環境に触れながら疑問や不思議が湧いて探究学習が行えるように、繰り返し川へ観察に出かけられるようにする。</li> </ul> <p>※活動計画、児童の書いたワークシートは別紙参照</p>		
<b>第3次</b>	学習活動	生き物をしょうかいしよう	4時間
	<p>〇〇川の生き物調査を行い発見した生き物の種類や特徴、見つけた場所の違いなどを多学年に発信するための方法を考え、分かりやすく伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発信方法は、パンフレットやポスター、地図など候補を提示し、児童自身が選べるようにしておく。</li> <li>国語科の学習とも関連を図り、書く指導を行うようにする。</li> </ul>		

注) 川で学習を行う場合は、時数の横に「川の活動」と記述する。

【スタートアップ活動報告書及び授業内容紹介資料の記載例】

別紙資料（1）第2次 ○○川の生き物を探そう

○○川での活動報告

評価規準 ○上流，中流，下流域の生き物比べたり，採取した生き物同士を比べたりしながら観察し，採取した生き物の特徴や生息域の特徴に気付くことができる。

○インターネットや図鑑などを活用して生き物のことを調べたり，生き物を観察したりして情報を集めることができる。

	4月	5月	6月	7月	
川での活動	<p style="text-align: center;"><b>中流の生き物を調べよう</b></p> <p style="text-align: center;">④</p> <p>○川に出かけよう。 ⇒水の流が速いところと遅いところがあるよ。丸くてコロコロした石がたくさんあるね。 ○どこにどんな生き物がいるかな。採って観察しよう。 ⇒石の下にカニみたいなのが隠れているよ。草の下の方に小さい魚がたくさんいたよ。シジミみたいなのがたくさんあったけど、食べられてるものもたくさんあったよ。何が食べるんだろう？ ヤゴは大きさが違うから種類が違いそうだ。透明なエビがいたよ。おなかの中まで透けて見えたよ。 この生き物を飼いたい。</p>	<p style="text-align: center;"><b>上流の生き物を調べよう</b></p> <p style="text-align: center;">④</p> <p>○中流と比べて川の様子はどうなった？ ⇒川の幅が狭くなってるよ。草がたくさんになった。草のかげに生き物がいるよ。 ○上流の生き物を調べてみよう。 ⇒前捕まえたヤゴがいないよ。メダカばかりじゃなくて、ハヤが獲れたよ。カワニナがたくさんいるよ。ホタルの幼虫が食べるって聞いた事あるよ。ヒラタドロムシって、石の裏にへばりついてついてるんだよ。 ドジョウがいたよ。土をかき回したら網に入ってたよ。小さい魚は石とか草のかげに隠れていたよ。 この石の裏のつぶつぶはな</p>	<p style="text-align: center;"><b>下流の生き物を調べよう</b></p> <p style="text-align: center;">④</p> <p>○これまでの川の様子と違うところはどこですか？ ⇒川の幅が広がってる。水の量が多くなった。 ○下流の生き物を調べよう。 ⇒川の幅は広いから捕まえにくいな。 フナがたくさんいるよ。食べられてる貝殻がたくさんあるね。前陰になっているところを探して捕まえたから、ここでも同じようにしたらいいんじゃない。 タナゴが獲れたよ。平べったい形してるよ。エビが石の下にいたよ。透明じゃなくて殻が黄土色してるよ。 場所で全然見つかる生き物が違うよ。</p>		
	他教科との関連	<p>国語「自然のかくし絵」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護色を使って敵から身を守っている昆虫のふしぎについて読みとる。</li> </ul>	<p>道徳「ケヤキのやさしさ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然のすばらしさや不思議さを感じ取ろうとする心情を育てる。</li> </ul> <p>3-②生命尊重</p>	<p>算数「表とグラフ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を整理し、表や棒グラフを使って表したり表や棒グラフを読んだりする。</li> </ul>	<p>理科「こんちゅうをしらべよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昆虫の体のつくりについて調べ、食べ物と隠れがとのかかわりに気付く。</li> </ul>

別紙資料（２） 指導案５・６／１９

総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 4月 〇〇日（〇） 〇校時  
 2 学年 3年 〇組 40名  
 3 場所 〇〇川 中流（〇〇付近）  
 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」  
 5 単元の目標

・〇〇川に生息している生き物を調査することを通して、〇〇川に興味をもち、〇〇川に愛着を持つことができる。

6 本時の展開

(1) 本時の目標

・〇〇川中流の生き物を採取して観察し、〇〇川には多くの種類の生き物が生息していることに気づき、生き物の特徴を見つけて観察記録にまとめることができる。

(2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価（方法）
<p>1. 前時までの学習をふり返る。                      ○今日から、どんな学習になりますか？                      ・〇〇川の生き物を見つけに出かける。                      ・学校の前だけじゃなくて、遠くも調べる、</p> <p>2. 川での注意点について知る。                      ○川に行って次の事に注意してください。                      ・決められた場所以外では生き物を採らない。                      ・蛇や蜂を見たときは、触れない。                      ・もしも蛇に噛まれたり蜂に刺されることがあったらすぐに言う。</p> <p>3. 〇〇川中流での生き物採取、観察をする。                      ○生き物をたくさん採って観察をしましょう。                      ・小さい魚が群れになって泳いでいる。                      ・透明なツブツブが石にたくさんくっついているよ。                      ・透明なエビが草と草の間にいたよ。                      ・草の熱この辺にたくさん生き物が隠れている。                      ・魚は、種類によってざらざらしている物やヌルヌルしている物がいて、手触りが違う。</p>	<p>〇〇〇川での学習に対する意欲を高めておく。</p> <p>○児童の安全を確保するために危険箇所や危険生物についてはしっかりと指導しておく。                      ○ライフジャケットを児童に配り、着用させる。                      ○万一流された時の姿勢について確認しておく。</p> <p>○どこにどのような生き物がいるのか、生き物の生息場所と種類との関係をとらえられるように声掛けをする。                      ○ポケット図鑑や虫眼鏡などを準備しておき、自由に使って観察できるようにする。                      ○ワークシートは、『川を活かした体験型学習プログラム』河川財団（著）にあるものを活用する。</p>	<p>〇〇川の生き物に興味をもち生き物調査を行うことができたか。（行動観察、ワークシート）</p>





<p>4. 今日分かったことを交流する。</p> <p>○気付いたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ種類の生き物は、同じ場所に集まっていた。</li> <li>・魚でも、いろんな魚の種類があった。</li> <li>・ザリガニがたくさん見つかると思っていたのに、ザリガニよりも貝とか魚の方がたくさんいた。</li> <li>・貝は、グルグルしたソフトクリームみたいなのとシジミに似たのと、べたっと石にへばりついているのがあった。貝でもいろんな種類がある。</li> </ul> <p>5. 次時の見通しをもつ。</p> <p>○これから学習をどのようにしていきますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日だけじゃ分からないから、もう 1 回来て調べたい。</li> <li>・次は、よく分かる人に話を聞きたい。</li> <li>・生き物を飼う準備をしたい。</li> </ul>	<p>○交流によって、児童が新たな視点を持てるようにする。</p> <p>○見つかった生き物の種類だけでなく、どこで見つけたのか場所についても言わせるようにする。</p> <p>○児童の意欲を掻き立てながらさらに探究活動が進むようにする。</p>	<p>生き物の観察を通して、生き物の特徴を見つけて記録することができたか。</p> <p>(行動観察、発言、ワークシート)</p>
--	---	---

【児童が見つけた生き物の例】一部抜粋



生き物調べ ワークシート		
3年〇組	名前	
観察した場所	〇〇川 中流	
観察した日	4月 〇日 天候（ 晴れ ）	

魚の名前は？	カワニナ	魚の絵をかこう 
見つけた場所	砂の上（水の中）	
体のとくちょう	ソフトクリームみたいな形。	
体の色	濃い茶色	
見つけた数	数えられない	
動き方	じっとしている	
その他	貝の先に丸い穴が開いているのがたくさんある。	

魚の名前は？	シジミ	魚の絵をかこう 
見つけた場所	砂の上（水の中）	
体のとくちょう	2つの貝が合わさっている。	
体の色	黒	
見つけた数	数えられない	
泳ぎ方	じっとしている	
その他	中身が食べられたのがたくさんある。	

気付いたこと・思ったこと・考えたこと

ぼくは、たくさんの貝殻を見つけました。よく見ると、たくさんころがっ  
ていま  
した。カワニナをのぞいてみると、中みがからっぽだった。からっぽの  
カワニナには、どれも先のところに小さなあながあいていた。ぼくは  
何かに食べられたと思う。それに、しじみも、からがあいているのがた  
くさんおちている。なにかに食べられてると思う。だから、なにが食べ  
ているのかを調べたいと思う。でも、ずっと見ていないと分からない  
から、どうしたら分かるかなとなやんでいる。

別紙資料(3) 指導案9・10/19

総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 5月 〇〇日(〇) 〇校時
- 2 学年 3年 〇組 40名
- 3 場所 〇〇川 上流 (〇〇付近)
- 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」
- 5 単元の目標
  - ・〇〇川に生息している生き物を調査することを通して、〇〇川に興味をもち、〇〇川に愛着を持つことができる。
- 6 本時の展開
  - (1) 本時の目標
    - ・〇〇川上流の生き物を採取して観察し、中流での生き物調査の結果と比較しながら〇〇川上流での生き物の特徴を見つけ、記録することができる。
  - (2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価(方法)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時までの学習をふり返る。 〇〇〇川には、どんな生き物がいましたか？ ・草の茎の根元に、透明なエビがいました。 ・いろんな形の貝がたくさん見つかりました。</li> <li>2. 本時の学習のねらいを確認する。 〇今日はどんな学習をしますか？ ・今日は、北の方の川を調べに行きます。 ・上流の方にはどんな生き物がいるか調べる。</li> <li>3. 〇〇川上流域の生き物を採取し、観察する。 〇生き物を採って、観察しましょう。 ・前生き物を採った所よりも川の水の量が少ないぞ。どこにいるんだろう？ ・前草の根元を採ったから、今日もやってみよう。 ・泥の中に隠れている魚もいるよ。 ・ここは、シジミみたいな貝よりもソフトクリームみたいな貝の方が多いよ。</li> <li>4. 観察して分かったことを交流する。 〇観察して分かったことを発表しましょう。 ・この前の時間に見つけた生き物が全部いるわけじゃなくて、何種類かはいるけど、新しく見る生き物がたくさんあった。 ・少しの川の水しかない所でも、ハヤとかの魚が泳いでいたから、強いと思った。</li> <li>5. 次時の見通しをもつ。 〇次の時間はどんな学習にしますか？ ・次ももう1時間この川で調べたい。 ・渦巻きに貝に穴が開いているのがたくさんあったから、もっと調べてみたい。</li> </ol>	<p>〇前時と比較しながら生き物調査が行えるように、前時の気付きを想起させておく。 〇川での注意事項について確認する。</p> <p>〇ただ川へ出かけただけに終わらないように目的意識を持たせておく。</p> <p>〇1人1着ずつライフジャケットを着用させ、活動を行わせる。 〇引率している教員は、児童が指定された場所以外へ行っていないか注意深く見ておく。 〇気付きが単発的にならないように、前時までの気付きと比較したり、生き物同士を比べたりするような切り返しを行っていく。</p> <p>〇〇〇川の生き物は多様であることを感じ取らせるようにする。 〇発見した生き物の名前だけの羅列にならないように、すみかの様子なども合わせて発表させるようにする。</p> <p>〇見たことのない生き物が多くなるため、解決できなくなった児童には専門家に聞くチャンスがあることを伝えてやる。</p>	<p>〇〇川中流と比較しながら生き物の観察を行い、生き物の特徴に気付くことができたか。 (行動観察、発言、ワークシート)</p>

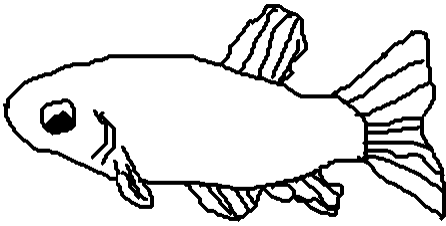
【児童が見つけた生き物例】


<p>上流域で見つかる生き物の写真を貼る。</p>		

【児童のワークシート記入例】

魚調べ ワークシート

3年〇組	名前	
観察した場所	〇〇川 上流	
観察した日	5月 〇日	天候 ( 晴れ )

魚の名前は？	ハヤ	魚の絵をかこう 
見つけた場所	草がたくさん生えているかげ	
体のとくちょう	つかんだらぬるぬるしている。	
体の色	おうど色	
見つけた数	2匹	
泳ぎ方	しっぽを大きくゆらゆらゆらしながら泳ぐ。	
その他		

魚の名前は？	ドジョウ	魚の絵をかこう 
見つけた場所	土の中	
体のとくちょう	筒のような形	
体の色	上は黒くて下側が肌色っぽい	
見つけた数	1匹	
泳ぎ方	バケツにへばりつく感じで泳いでいる。	
その他		

気付いたこと・思ったこと・考えたこと

わたしは、上流で生き物をさがすときに、はじめ学校の前でとったときみたいにあみでがさがさすればすぐにとれるのかなと思っていたけど、ちがいました。今日は、友達に草のちかくをじゃぶじゃぶしながら歩いてもらったり土をかきまぜてもらったりして生き物をとりました。場所がちがうと、生き物がかくれているところがちがうんだと思いました。それに見つかる生き物もちがいました。はじめて見た生き物ばかりなので、教室でかってみたいです。





別紙資料（４） 指導案16／19

総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 7月 〇日（〇） 〇校時
- 2 学年 3年 〇組 40名
- 3 場所 3年 〇組教室
- 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」
- 5 単元の目標
  - ・〇〇川に生息している生き物を調査することを通して、〇〇川に興味をもち、〇〇川に愛着を持つことができる。
- 6 本時の展開
  - (1) 本時の目標
    - ・生き物調査で生き物の観察をして事を使って、誰にどのような方法で伝えたいかを決めることができる。
  - (2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価（方法）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの生き物調査をふり返る。 ○これまでに、たくさん生き物を見つけてきましたが、どんな生き物がいましたか。 ・どこの川でもアメンボはいました。 ・上流にいたドジョウは下流にはいませんでした。</li> <li>2. 調べたことを表現する計画を立てる。 ○みなさんは、調べたことを誰に伝えたいですか。 ・まだ生き物のことを知らない1年生に伝えたい。 ・家の人に伝えたい。家で話すけど、実際どうかわからないから。 ・一生懸命に調べたから、6年生に聞いてほしい。 ○どんな方法で伝えますか？ ・集会を使わせてもらって、みんなの前で発表する。その時、絵を描かいて生き物の様子とかすみかと化を知らせる。 ・ポスターとかを書いて、きれいな所でしか棲めない生き物もいたから、川を汚さないようお願いもする。</li> <li>3. 次時の学習の見通しをもつ。</li> </ol>	<p>○いろいろな生き物をたくさん見つけていることから伝えたい気持ちを膨らませるようにする。</p> <p>○発表し合う前に、ワークシートへ誰にどのような方法で伝えたいか、また、その理由は何かを書かしておく。 早く書けた児童には、何を伝えたいかを具体的に書かしておく。</p> <p>○実現不可能な方法については、全体へ投げかけ、その場で修正させる。</p> <p>○必要な材料などを言いに来るよう伝えておく。</p>	<p>調べたことを自分に合った方法で、誰にどうやって伝えるのか決めることができる。 (発言、ワークシート)</p>

【児童の作品】

<p style="text-align: center;">どじょう</p> 	<h2 style="text-align: center;">トンボクイズ</h2> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">なんのしゅるいのヤゴでしょう？</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: left;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p>①答え シオカラトンボ ＜特ちょう＞ うらがえして見ると、はらの所がギザギザしている。</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p>②答え オニヤンマ ＜特ちょう＞ つつのような形で、目が丸くて大きい。動きが他より早い。</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p>③答え アキアカネ ＜特ちょう＞ 頭が横に長い。他のヤゴよりも体が小さくて、足が長い。</p> </td> </tr> </table>	<p>①答え シオカラトンボ ＜特ちょう＞ うらがえして見ると、はらの所がギザギザしている。</p>	<p>②答え オニヤンマ ＜特ちょう＞ つつのような形で、目が丸くて大きい。動きが他より早い。</p>	<p>③答え アキアカネ ＜特ちょう＞ 頭が横に長い。他のヤゴよりも体が小さくて、足が長い。</p>
<p>①答え シオカラトンボ ＜特ちょう＞ うらがえして見ると、はらの所がギザギザしている。</p>	<p>②答え オニヤンマ ＜特ちょう＞ つつのような形で、目が丸くて大きい。動きが他より早い。</p>	<p>③答え アキアカネ ＜特ちょう＞ 頭が横に長い。他のヤゴよりも体が小さくて、足が長い。</p>		
<p>【ポスター】</p>	<p>【クイズ】</p>			

【スタートアップ活動報告書及び授業内容紹介資料の記載例】



アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	〇〇川の良さを見直そう		学校名	〇〇市立〇〇小学校		助成番号	28-7212- 000				
2.単元名	〇〇川調査隊 ～生き物を取りもどそう!～										
3.目標	〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気付き、川の環境保全のために自ら行動することができる。										
4.実施学年 人数	第4学年 40名										
5.場所	〇〇市〇〇町〇番付近 〇〇川 (中流域)										
6.単元構想 (総時間数)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
4学年	〇〇川の生き物調査をしよう 20時間			〇〇川の水質調査をしよう 20時間			自分の生活をふり返ろう 15時間				
	〇〇川へ出かけ、水生生物や魚などを採ったり観察したりして、川には種類の異なる生き物や魚がいることや環境ごとに見られる生き物や魚が異なることに気付かせる。そして、〇〇川への興味や関心を高め、川の水質へ視点が向くようにする。			〇〇川の底生生物を調査し、バックテストを用いて水質検査を行う。その際、過去の水質データと比較させることにより、生活様式の変化に伴って水質汚染が進んできたことに気付かせ、自らの生活を振り返り改善していく必要があることを感じ取らせるようにする。			自らの生活を振り返り、生き物が棲みやすい川にするために自分にできることは何なのかを考え行動し、地域へ発信していくことができる。				
主な学習活動	【課題を設定する】⑤ 〇〇〇川周辺を散歩し、川の様子を知る。〇下見をもとにどのような生き物を調査していきたいのか、自らの課題を設定し、解決のための調査計画を立て、学習の見通しをもつ。	【調査活動】⑩ 〇水生生物や魚を採り、観察をする。 〇どこでどのような生き物や魚が獲れたのかを記録させておく。 〇採った生き物や魚を持ち帰り、教室で飼育する。	【まとめる】⑤ 〇生き物調査によって分かったことを図鑑やパンフレットなどにまとめ、校内に展示をして他学年に知ってもらおう。	【課題を設定する】④ 〇1学期の学習をふり返り、〇〇川の水の汚れについて話し合う。 〇自らの課題を設定し、解決のための計画を立て、学習の見通しをもつ。 ※どの場所で調査を行うかについてあらかじめ決定しておく。	【調査活動】⑪ 〇指標生物について知り、各調査場所において底生生物を採取し、結果を記録する。 〇バックテストを用いて、水質の様子を数値化し、各調査場所の比較を行う。 〇以前の水質データとの比較を行い、年々川の汚れがひどくなっていることをとらえる。	【まとめる】⑤ 〇表やグラフを用いながら、水質調査を行った結果をまとめる。 〇結果をもとに、考察し、汚れの原因について考える。	【課題を設定する】⑤ 〇これまでの学習をふり返り、自分の生活を振り返る。 〇川の水質を保全するためにできることを考え、計画を立てる。	【行動し、発信する】⑩ 〇家庭において計画をもとに実行する。 〇自分の行動を振り返り、更に広めていくための手段について考える。 〇地域の方へ発信していく方法について考えて準備し、発表する			
	〇〇〇川の生き物調査に興味や関心を持ち、学習の見通しを持ちながら学習計画を立てることができる。	〇生き物を観察したり飼育したりすることを通して、新たな疑問を持ち、学習課題を設定することができる。 〇生き物のつくりと食べ物や棲む環境など関連させながら観察することができる。	〇生き物の特徴がよく分かるように情報を選択し、分かりやすくまとめることができる。 〇生き物と棲んでいる環境との関係が分かるように筋道を立てて話したり、友達に質問したりすることができる。	〇〇〇川の水質調査に興味や関心を持ち、学習の見通しを持ちながら学習計画を立てることができる。	〇底生生物の調査や水質検査を通して、新たな疑問を持ち、学習課題を設定することができる。 〇現在と過去水質データを比較し汚れの要因を考えることができる。	〇伝えたい中心が分かるように表やグラフ、図を用いながらまとめることができる。 〇自分の考えを筋道を立てて話したり、友達に質問したりすることができる。	〇自分にできることを考え、見通しをもちながら計画を立てることができる。	〇計画に沿って進んで課題を解決することができる。			
評価項目											




※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

(NO. 2)

1.助成事業名	〇〇川の良さを見直そう	学校名	〇〇市立〇〇小学校	助成番号	28-7212- 000
---------	-------------	-----	-----------	------	--------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2				
4 学 年	〇〇川の生き物調査をしよう 22時間				〇〇川の水質調査をしよう 22時間				自分の生活をふり返ろう 10時間						
	<p>〇〇川へ出かけ、水生生物や魚などを採ったり観察したりして、川には種類の異なる生き物や魚がいることや環境ごとに見られる生き物や魚が異なることに気付かせる。そして、〇〇川への興味や関心を高め、川の水質へ視点が向くようにする。</p>				<p>〇〇川の底生生物を調査し、パックテストを用いて水質検査を行う。その際、過去の水質データと比較させることにより、生活様式の変化に伴って水質汚染が進んできたことに気付かせ、自らの生活を振り返り改善していく必要があることを感じ取らせるようにする。</p>				<p>自らの生活をふり返り、生き物が棲みやすい川にするために自分にできることは何なのかを考え、行動することができるようにする。</p>						
	<p>【課題を設定する】⑥ 川の様子を知るため、〇〇川周辺を散歩し、気付いたことを交流する。〇散歩して疑問に思ったことや興味を持ったことをもとに、どのようなことを調べていきたいのか自らの課題を設定し、解決のための調査計画を立て、学習の見通しをもつ。 ※理科「季節と生物」との関連を図るようにする。 ※地域の専門家と連携し、川を案内してもらう。</p>		<p>【調査活動】⑩ 〇水生生物や魚を採り、観察をし、自分なりの方法で記録しておく。〇2か所で生き物調査を行い、それぞれの記録を比較し、共通点や差異点を見つけ、場所との関係を見出す。 ※どこでどのような生き物や魚が獲れたのかを記録させておく。 ※児童の希望があれば採った生き物や魚を持ち帰り、教室で飼育してよいことにする。 ※川での活動になるため、安全を確保するためにライフジャケットを人数分用意しておく。 別紙) 指導案・写真添付</p>		<p>【まとめる】⑥ 〇生き物調査によって分かったことを図鑑やパンフレットなどにまとめ、校内に展示をして他学年に知ってもらおう。 ※国語科との関連を図り、分かりやすく書いてまとめることができるようにする。</p>		<p>【課題を設定する】④ 〇1学期の学習をふり返り、〇〇川の水の汚れについて話し合う。 〇自らの課題を設定し、解決のための計画を立て、学習の見通しをもつ。 ※どの場所で調査を行うかについてあらかじめ決定しておく。</p>		<p>【調査活動】⑬ 〇指標生物について知り、各調査場所においてグループに分かれて底生生物を採取し、結果を記録する。 〇パックテストを用いて、水質の様子を数値化し、各調査場所の比較を行う。 〇2000年の水質データとの比較を行い、年々川の汚れがひどくなっていることをとらえる。 ※パックテストで、CODと窒素の調査をおこなう。 別紙) 指導案・写真添付</p>		<p>【まとめる】⑤ 〇表やグラフを用いながら、水質調査を行った結果をまとめる。 〇結果をもとに、考察し、汚れの原因について考える。 ※各調査場所の結果を比較し、共通点や差異点を見だし、要因について考えるようにする。 ※算数科「表とグラフ」と関連を図る。 別紙) 児童の作品添付</p>		<p>【課題を設定する】⑤ 〇これまでの学習をふり返り、自分の生活を振り返る。 〇川の水質を保全するためにできることを考え、計画を立てる。</p>		<p>【行動する】⑤ 〇家庭において計画をもとに実行する。 〇自分の行動をふり返り、更に広めていくための手段について考える。 ※道徳の自然愛や郷土愛との関連を図り、〇〇川へ愛着が持てるようにする。</p>
															

8.成果と課題

- 〇児童にとって興味・関心の高い生物調査を学習の導入にすることによって、児童の水質保全に対する思いが高まり、家庭でも汚水を流さないように取り組む児童が増えた。
- 〇川が汚れていては生物が棲めなくなると、児童が進んで友達と協力し合いゴミ拾いを始めるようになった。
- 〇他教科との関連を図ることによって、学習につながりをもって意欲的に取り組む児童の姿が見られるようになった。
- 地域の人材開発、ゲストティーチャーに来ていただいたときの学習の内容の連携など、今後進めていく必要がある。

別紙資料(1) 指導案8/54

総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 5月 〇〇日(〇) 〇校時
- 2 学年 4年 〇組 40名
- 3 場所 〇〇川
- 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」
- 5 単元の目標

・〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気付き、川の環境保全のために自ら行動することができる。

6 本時の展開

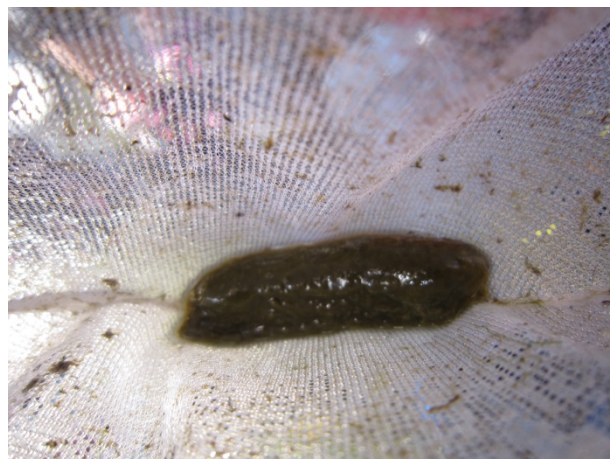
(1) 本時の目標

・〇〇川の魚を採取し、観察することを通して、魚の形や色が種類によって異なることに気付くことができる。

(2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価(方法)
<p>1. 学習の見通しをもつ。</p> <p>○この川には、どんな種類の魚がいると思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フナがいると思います。</li> <li>・コイがいると思います。</li> </ul> <p>○何匹採れると思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広いから、10匹くらいは取れると思います。</li> <li>・すばしっこいから、2匹くらいしか取れないと思います。</li> </ul> <p>2. 道具の使い方や採り方を知る。</p> <p>○ライフジャケットを装着すること。</p> <p>○タモ網での採り方を指導する。</p> <p>3. 魚を捕まえる。</p> <p>○活動範囲から外に行かないようにして魚を捕まえましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく魚を追い込めないな。</li> <li>・水の中の草の中には、エビとか魚がたくさんいるよ。</li> </ul> <p>4. 魚を調べる。</p> <p>○採った魚を観察してワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この魚、見た感じは似てるけど、ひれの形とか違う。</li> <li>・ヌルヌルした魚もいるんだな。</li> </ul> <p>5. まとめをする。</p> <p>○観察して分かったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなにいっぱい種類がいるとは思わなかった。</li> <li>・飼って、もっと見たくなりました。</li> </ul>	<p>○自由に思いを言わせ、学習に興味を持たせる。</p> <p>○今後の川での活動でも使えるよう、ていねいに指導しておく。</p> <p>○水辺は楽しいが、危険もあることをしっかりと意識させる。</p> <p>○児童が危険な場所へ行かないように目を配っておく。</p> <p>○川には、魚が隠れやすい場所があることを伝え、静かに近づく必要があることを教える。</p> <p>○図鑑などを活用し、魚の名前や特徴を調べたり、ルーペなどを使って詳しく見たりし、魚の特徴を学ばせる。</p> <p>○飼いたい児童には飼って観察してもいいことを伝える。</p>	<p>魚の種類によって特徴が異なることに気付くことが出ているか。 (発言、行動観察、ワークシート)</p>

【川での活動の様子】



## 別紙資料(2) 指導案16/54

## 総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 6月 〇〇日(〇) 〇校時  
 2 学年 4年 〇組 40名  
 3 場所 自教室  
 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」  
 5 単元の目標

・〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気づき、川の環境保全のために自ら行動することができる。

## 6 本時の展開

## (1) 本時の目標

・〇〇川の北側と南側の生物調査の結果を比較することを通して、生物の特徴と生息環境との関係に気づき、自分なりに説明することができる。

## (2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価(方法)
<p>1. 前時までの学習をふり返る。          ○どこにどんな生き物がいましたか?          ・浅い川の泥の中にドジョウがいました。          ・石をひっくり返してみると、ヒラタドロムシの幼虫がいました。</p> <p>2. 生物の種類と生息環境について考える。          ○見つけた生き物を川の地図に貼りましょう。          ・ハヤは、川の端っこにいたよ。          ・ヤゴは石とかのかげにいたよ。          ・スジエビは植物の茎の根元の方をがさがさすると採れたよ。          ・カワニナは石の下にくっ付いていたよ。          ○結果を見て、気付いたことを書きましょう。          ・環境がちがうと、見つかる生き物と見つかからない生き物がいる。          ・隠れるのに得意なように、ヤゴは平べったい形をしているんじゃないかな。          ・その場所が汚れて棲めなくなったら、その生き物が全部居なくなるってことだよ。</p> <p>3. まとめをする。          ○今日のまとめを書きましょう。          ・生き物によって、棲む場所が決まっていることが分かった。</p>	<p>○生物の特徴に視点を当てられるように、特徴も付け加えて言わせるようにする。</p> <p>○あらかじめ準備しておいた川の絵を黒板に貼り、付箋を使って、どこに何がいたかを書いて示させる。</p> <p>○生物ごとにグルーピングしていき、環境によって生息する生物が異なることがとらえられるようにする。</p> <p>○生物の特徴と生息環境との関係を自分なりに説明させる。</p>	<p>生物の特徴と生息環境との関係を説明することができるか。          (発言、ワークシート)</p>

別紙資料(2) 指導案28, 29/54

総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 10月 〇〇日(〇) 〇校時
- 2 学年 4年 〇組 40名
- 3 場所 〇〇川
- 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」
- 5 単元の目標

- ・〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気づき、川の環境保全のために自ら行動することができる。

6 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・〇〇川の底生生物の調査を行うことを通して、生物の棲みやすさについて関心を高めることができる。

(2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価(方法)
<p>1. 指標生物について説明を聞く。 ○底生生物は、環境に敏感な生物であるため、生息している生物を調べることで、川の状態を判定できる。</p> <p>2. 底生生物の採集をする。 ○底生生物を探して採りましょう。 ・本当に小っちゃいね。 ・たくさんいるけど、パッと見ただけじゃ分からないね。 ・タニシが獲れた。</p> <p>3. 底生生物の確認をし、結果を記録する。 ○写真を見ながら採れた底生生物の中絵を確認して、ワークシートに見つけた数と結果を書きいれましょう。 ・ヒラタドロムシやスジエビが見つかったけど、数が多いのはタニシだな。 ・少し汚い水の生き物もいるけど、汚い水の生き物の数が多いよ。</p> <p>4. 結果をもとに判定し、考察する。 ○記録したワークシートの結果をもとに水質を判定しましょう。 ・見た感じ透明だけど、汚い水に棲む生き物がたくさん見つかった。 ・水のきれいさは、見た目じゃ分からないね。</p> <p>5. 次時の見通しをもつ。 ・生き物だけではどれくらい汚いかわからないか、測る物はないのかな？</p>	<p>○写真等で示し、どのような生物なのかを確認させる。</p> <p>○採り方を演示で見せ、児童に採集させる。</p> <p>○採った生物は、グループごとにバットなどにあけておく。</p> <p>○石の裏側にも引っ付いていることがあることを伝える。</p> <p>○ひっくり返した石などは、元の位置に戻すよう指導する。</p> <p>○指標生物の種類と数を記録できるワークシートを準備しておく。</p> <p>○ワークシートへの記入の仕方を説明する。</p> <p>○生物の棲みやすさについて疑問が持てるよう、見た目と結果のギャップを感じさせるよう声掛けをする。</p>	

## 【児童の作品】水質調査まとめ例

## 水質調査について～パックテストの調査～

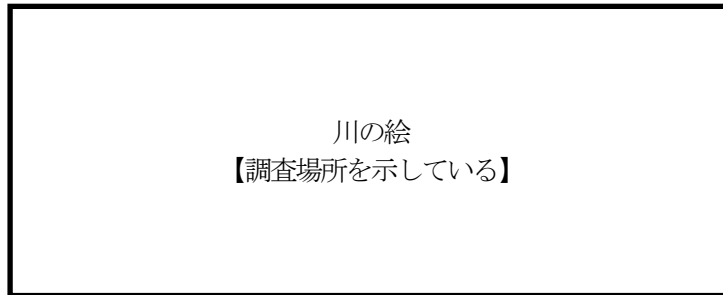
## 1. 調べたきっかけ

1学期に〇〇川の生き物を採って調べて、たくさん生き物がいることは分かった。でも、家の人から川が昔よりも汚くなっていることを聞いた。だから、今どれくらい汚れているのか知りたくなりました。

## 2. 調べる方法

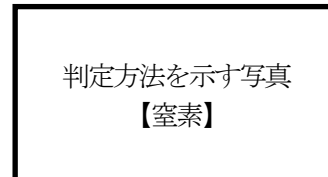
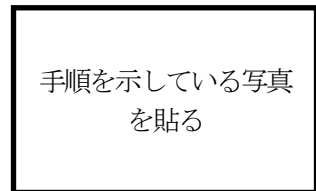
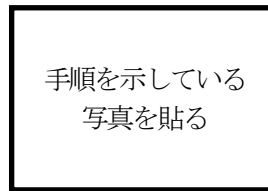
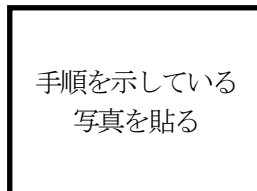
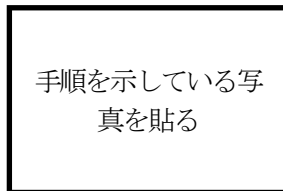
だれにでも水の汚さが分かるように、パックテストで検査をしました。パックテストでは、CODと窒素を調べました。

場所 底生生物を調べた場所（2か所）



川の絵  
【調査場所を示している】

日時 6月〇日（〇）、6月〇日（〇）、6月〇日（〇） 10:30～11:15



## 3. 結果

## A地点

	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）
COD	3	3	3
窒素	1	1	1

## B地点

	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）
COD	5	5	5
窒素	2	2	2

A地点では、CODの結果は3、窒素の結果は1だった。

B地点では、CODの結果は5、窒素の結果は2だった。

## 4. 考察

このことから、A地点とB地点を比べると、B地点の方が汚れているということが分かる。

それは、B地点の場所は、家が多くて、生活排水が川に流れているところもあった。だから、生活排水によって、川は汚されているのだと考える。

よって、B地点の生き物は、A地点に比べて棲みにくく、底生生物も得点の低い生き物がたくさん見つかったのだと思う





調査・研究助成 活動報告書




(NO. 1)

1.助成事業名	〇〇川の良さを見直そう		学校名	〇〇市立〇〇小学校		助成番号	28-7221- 000				
2.単元名	〇〇川調査隊 ～生き物を取りもどそう!～										
3.目標	〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気付き、川の環境保全のために自ら行動することができる。										
4.実施学年 人数	第4学年 40名										
5.場所	〇〇市〇〇町〇番付近 〇〇川 (中流域)										
6.単元構想 (総時間数)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
4学年	〇〇川の生き物調査をしよう 20時間			〇〇川の水質調査をしよう 20時間			自分の生活をふり返ろう 15時間				
	〇〇川へ出かけ、水生生物や魚などを採ったり観察したりして、川には種類の異なる生き物や魚がいることや環境ごとに見られる生き物や魚が異なることに気付かせる。そして、〇〇川への興味や関心を高め、川の水質へ視点が向くようにする。			〇〇川の底生生物を調査し、バックテストを用いて水質検査を行う。その際、過去の水質データと比較させることにより、生活様式の変化に伴って水質汚染が進んできたことに気付かせ、自らの生活を振り返り改善していく必要があることを感じ取らせるようにする。			自らの生活をふり返り、生き物が棲みやすい川にするために自分にできることは何なのかを考え行動し、地域へ発信していくことができる。				
主な学習活動	【課題を設定する】⑤ 〇〇〇川周辺を散歩し、川の様子を知る。 〇下見をもとにどのような生き物を調査していきたいのか、自らの課題を設定し、解決のための調査計画を立て、学習の見通しをもつ。	【調査活動】⑩ 〇水生生物や魚を採り、観察をする。 〇どこでどのような生き物や魚が獲れたのかを記録させておく。 〇採った生き物や魚を持ち帰り、教室で飼育する。	【まとめる】⑤ 〇生き物調査によって分かったことを図鑑やパンフレットなどにまとめ、校内に展示をして他学年に知ってもらおう。	【課題を設定する】④ 〇1学期の学習をふり返り、〇〇川の水の汚れについて話し合う。 〇自らの課題を設定し、解決のための計画を立て、学習の見通しをもつ。 ※どの場所で調査を行うかについてあらかじめ決定しておく。	【調査活動】⑪ 〇指標生物について知り、各調査場所において底生生物を採取し、結果を記録する。 〇バックテストを用いて、水質の様子を数値化し、各調査場所の比較を行う。 〇以前の水質データとの比較を行い、年々川の汚れがひどくなっていることをとらえる。	【まとめる】⑤ 〇表やグラフを用いながら、水質調査を行った結果をまとめる。 〇結果をもとに、考察し、汚れの原因について考える。	【課題を設定する】⑤ 〇これまでの学習をふり返り、自分の生活を振り返る。 〇川の水質を保全するためにできることを考え、計画を立てる。	【行動し、発信する】⑩ 〇家庭において計画をもとに実行する。 〇自分の行動をふり返り、更に広めていくための手段について考える。 〇地域の方へ発信していく方法について考えて準備し、発表する			
	評価項目	〇〇〇川の生き物調査に興味や関心を持ち、学習の見通しを持ちながら学習計画を立てることができる。	〇生き物を観察したり飼育したりすることを通して、新たな疑問を持ち、学習課題を設定することができる。 〇生き物のつくりと食べ物や棲む環境など関連させながら観察することができる。	〇生き物の特徴がよく分かるように情報を選択し、分かりやすくまとめることができる。 〇生き物と棲んでいる環境との関係が分かるように筋道を立てて話したり、友達に質問したりすることができる。	〇〇〇川の水質調査に興味や関心を持ち、学習の見通しを持ちながら学習計画を立てることができる。	〇底生生物の調査や水質検査を通して、新たな疑問を持ち、学習課題を設定することができる。 〇現在と過去水質データを比較し汚れの要因を考えることができる。	〇伝えたい中心が分かるように表やグラフ、図を用いながらまとめることができる。 〇自分の考えを筋道を立てて話したり、友達に質問したりすることができる。	〇自分にできることを考え、見通しをもちながら計画を立てることができる。	〇計画に沿って進んで課題を解決することができる。		

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

調査・研究助成 活動報告書

(NO. 2)

1.助成事業名		〇〇川の良さを見直そう				学校名		〇〇市立〇〇小学校		助成番号		28-7221- 000			
7.実際に行った単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。															
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2				
4 学 年	〇〇川の生き物調査をしよう 22時間				〇〇川の水質調査をしよう 22時間				自分の生活をふり返ろう 10時間						
	<p>〇〇川へ出かけ、水生生物や魚などを採ったり観察したりして、川には種類の異なる生き物や魚がいることや環境ごとに見られる生き物や魚が異なることに気付かせる。そして、〇〇川への興味や関心を高め、川の水質へ視点に向くようにする。</p>				<p>〇〇川の底生生物を調査し、パックテストを用いて水質検査を行う。その際、過去の水質データと比較させることにより、生活様式の変化に伴って水質汚染が進んできたことに気付かせ、自らの生活を振り返り改善していく必要があることを感じ取らせるようにする。</p>				<p>自らの生活をふり返り、生き物が棲みやすい川にするために自分にできることは何なのかを考え、行動することができるようにする。</p>						
<p>【課題を設定する】⑥ 川の様子を知るため、〇〇川周辺を散歩し、気付いたことを交流する。 〇散歩して疑問に思ったことや興味を持ったことをもとに、どのようなことを調べていきたいのか自らの課題を設定し、解決のための調査計画を立て、学習の見通しをもつ。 ※理科「季節と生物」との関連を図るようにする。 ※地域の専門家と連携し、川を案内してもらう。</p>		<p>【調査活動】⑩ 〇水生生物や魚を採り、観察をし、自分なりの方法で記録しておく。 〇2か所で生き物調査を行い、それぞれの記録を比較し、共通点や差異点を見つけ、場所との関係を見出す。 ※どこでどのような生き物や魚が獲れたのかを記録させておく。 ※児童の希望があれば採った生き物や魚を持ち帰り、教室で飼育してよいことにする。 ※川での活動になるため、安全を確保するためにライフジャケットを人数分用意しておく。 別紙) 指導案・写真添付</p>		<p>【まとめる】⑥ 〇生き物調査によって分かったことを図鑑やパンフレットなどにまとめ、校内に展示をして他学年に知ってもらおう。 ※国語科との関連を図り、分かりやすく書いてまとめることができるようにする。</p>		<p>【課題を設定する】④ 〇1学期の学習をふり返り、〇〇川の水の汚れについて話し合う。 〇自らの課題を設定し、解決のための計画を立て、学習の見通しをもつ。 ※どの場所で調査を行うかについてあらかじめ決定しておく。</p>		<p>【調査活動】⑬ 〇指標生物について知り、各調査場所においてグループに分かれて底生生物を採取し、結果を記録する。 〇パックテストを用いて、水質の様子を数値化し、各調査場所の比較を行う。 〇2000年の水質データとの比較を行い、年々川の汚れがひどくなっていることをとらえる。 ※パックテストで、CODと窒素の調査をおこなう。 別紙) 指導案・写真添付</p>		<p>【まとめる】⑤ 〇表やグラフを用いながら、水質調査を行った結果をまとめる。 〇結果をもとに、考察し、汚れの原因について考える。 ※各調査場所の結果を比較し、共通点や差異点を見だし、要因について考えるようにする。 ※算数科「表とグラフ」と関連を図る。 別紙) 児童の作品添付</p>		<p>【課題を設定する】⑤ 〇これまでの学習をふり返り、自分の生活を振り返る。 〇〇川の水質を保全するためにできることを考え、計画を立てる。</p>		<p>【行動する】⑤ 〇家庭において計画をもとに実行する。 〇自分の行動をふり返り、更に広めていくための手段について考える。 ※道徳の自然愛や郷土愛との関連を図り、〇〇川へ愛着が持てるようにする。</p>	
															

8.成果と課題

- 〇児童にとって興味・関心の高い生物調査を学習の導入にすることによって、児童の水質保全に対する思いが高まり、家庭でも汚水を流さないように取り組む児童が増えた。
- 〇川が汚れては生物が棲めなくなると、児童が進んで友達と協力し合いゴミ拾いを始めるようになった。
- 〇他教科との関連を図ることによって、学習につながりをもって意欲的に取り組む児童の姿が見られるようになった。
- 地域の人材開発、ゲストティーチャーに来ていただいたときの学習の内容の連携など、今後進めていく必要がある。

## 別紙資料(1) 指導案8/54

## 総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 5月 〇〇日(〇) 〇校時  
 2 学年 4年 〇組 40名  
 3 場所 〇〇川  
 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」  
 5 単元の目標

・〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気付き、川の環境保全のために自ら行動することができる。

## 6 本時の展開

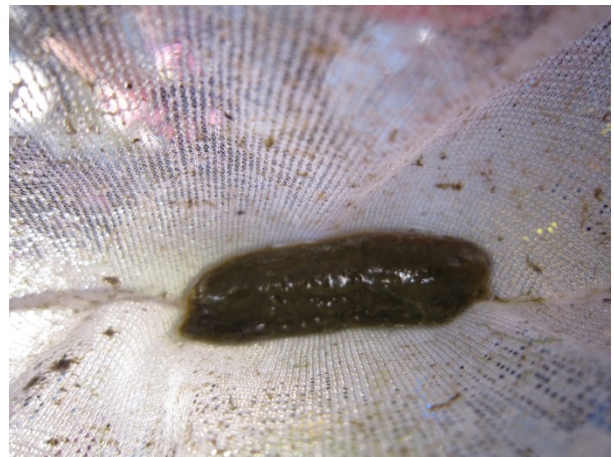
## (1) 本時の目標

・〇〇川の魚を採取し、観察することを通して、魚の形や色が種類によって異なることに気付くことができる。

## (2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価(方法)
<p>1. 学習の見通しをもつ。            ○この川には、どんな種類の魚がいると思いますか？            ・フナがいると思います。            ・コイがいると思います。            ○何匹採れると思いますか？            ・広いから、10匹くらいは取れると思います。            ・すばしっこいから、2匹くらいしか取れないと思います。</p> <p>2. 道具の使い方や採り方を知る。            ○ライフジャケットを装着すること。            ○タモ網での採り方を指導する。</p> <p>3. 魚を捕まえる。            ○活動範囲から外に行かないようにして魚を捕まえましょう。            ・うまく魚を追い込めないな。            ・水の中の草の中には、エビとか魚がたくさんいるよ。</p> <p>4. 魚を調べる。            ○採った魚を観察してワークシートに書きましょう。            ・この魚、見た感じは似てるけど、ひれの形とか違う。            ・ヌルヌルした魚もいるんだな。</p> <p>5. まとめをする。            ○観察して分かったことを発表しましょう。            ・こんなにいっぱい種類がいるとは思わなかった。            ・飼って、もっと見たくくなりました。</p>	<p>○自由に思いを言わせ、学習に興味を持たせる。</p> <p>○今後の川での活動でも使えるよう、ていねいに指導しておく。            ○水辺は楽しいが、危険もあることをしっかりと意識させる。</p> <p>○児童が危険な場所へ行かないように目を配っておく。            ○川には、魚が隠れやすい場所があることを伝え、静かに近づく必要があることを教える。</p> <p>○図鑑などを活用し、魚の名前や特徴を調べたり、ルーペなどを使って詳しく見たりし、魚の特徴を学ばせる。</p> <p>○飼いたい児童には飼って観察してもいいことを伝える。</p>	<p>魚の種類によって特徴が異なることに気付くことが出ているか。            (発言、行動観察、ワークシート)</p>

【川での活動の様子】



別紙資料(2) 指導案16/54

総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 6月 〇〇日(〇) 〇校時
- 2 学年 4年 〇組 40名
- 3 場所 自教室
- 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」
- 5 単元の目標

- ・〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気付き、川の環境保全のために自ら行動することができる。

6 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・〇〇川の北側と南側の生物調査の結果を比較することを通して、生物の特徴と生息環境との関係に気付き、自分なりに説明することができる。

(2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価(方法)
<p>1. 前時までの学習をふり返る。                      ○どこにどんな生き物がいましたか?                      ・浅い川の泥の中にドジョウがいました。                      ・石をひっくり返してみると、ヒラタドロムシの幼虫がいました。</p> <p>2. 生物の種類と生息環境について考える。                      ○見つけた生き物を川の地図に貼りましょう。                      ・ハヤは、川の端っこにいたよ。                      ・ヤゴは石とかのかげにいたよ。                      ・スジエビは植物の茎の根元の方をがさがさすると採れたよ。                      ・カワニナは石の下にくっ付いていたよ。                      ○結果を見て、気付いたことを書きましょう。                      ・環境がちがうと、見つかる生き物と見つからない生き物がある。                      ・隠れるのに得意なように、ヤゴは平べったい形をしているんじゃないかな。                      ・その場所が汚れて棲めなくなったら、その生き物が全部居なくなるってことだよ。</p> <p>3. まとめをする。                      ○今日のまとめを書きましょう。                      ・生き物によって、棲む場所が決まっていることが分かった。</p>	<p>○生物の特徴に視点を当てられるように、特徴も付け加えて言わせるようにする。</p> <p>○あらかじめ準備しておいた川の絵を黒板に貼り、付箋を使って、どこに何がいたかを書いて示させる。                      ○生物ごとにグルーピングしていき、環境によって生息する生物が異なることがとらえられるようにする。</p> <p>○生物の特徴と生息環境との関係を自分なりに説明させる。</p>	<p>生物の特徴と生息環境との関係を説明することができるか。                      (発言、ワークシート)</p>

別紙資料(2) 指導案28, 29/54

## 総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 日時 2000年 10月 〇〇日(〇) 〇校時  
 2 学年 4年 〇組 40名  
 3 場所 〇〇川  
 4 単元名 「〇〇川で生き物調査」  
 5 単元の目標

・〇〇川の生き物調査や水質調査をすることを通して、〇〇川に興味をもち、現在の〇〇川の水環境の要因に気づき、川の環境保全のために自ら行動することができる。

## 6 本時の展開

## (1) 本時の目標

・〇〇川の底生生物の調査を行うことを通して、生物の棲みやすさについて関心を高めることができる。

## (2) 学習の展開

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・支援	評価(方法)
<p>1. 指標生物について説明を聞く。          ○底生生物は、環境に敏感な生物であるため、生息している生物を調べることで、川の状態を判定できる。</p> <p>2. 底生生物の採集をする。          ○底生生物を探して採りましょう。          ・本当に小っちゃいね。          ・たくさんいるけど、パッと見ただけじゃ分からないね。          ・タニシが獲れた。</p> <p>3. 底生生物の確認をし、結果を記録する。          ○写真を見ながら採れた底生生物の中絵を確認して、ワークシートに見つけた数と結果を書きいれましょう。          ・ヒラタドロムシやスジエビが見つかったけど、数が多いのはタニシだな。          ・少し汚い水の生き物もいるけど、汚い水の生き物の数が多いよ。</p> <p>4. 結果をもとに判定し、考察する。          ○記録したワークシートの結果をもとに水質を判定しましょう。          ・見た感じ透明だけど、汚い水に棲む生き物がたくさん見つかった。          ・水のきれいさは、見た目じゃ分からないね。</p> <p>5. 次時の見通しをもつ。          ・生き物だけではどれくらい汚いかわからないか、測る物はないのかな？</p>	<p>○写真等で示し、どのような生物なのかを確認させる。</p> <p>○採り方を演示で見せ、児童に採集させる。</p> <p>○採った生物は、グループごとにバットなどにあけておく。</p> <p>○石の裏側にも引っ付いていることがあることを伝える。</p> <p>○ひっくり返した石などは、元の位置に戻すよう指導する。</p> <p>○指標生物の種類と数を記録できるワークシートを準備しておく。</p> <p>○ワークシートへの記入の仕方を説明する。</p> <p>○生物の棲みやすさについて疑問が持てるよう、見た目と結果のギャップを感じさせるよう声掛けをする。</p>	

## 【児童の作品】水質調査まとめ例

## 水質調査について～パックテストの調査～

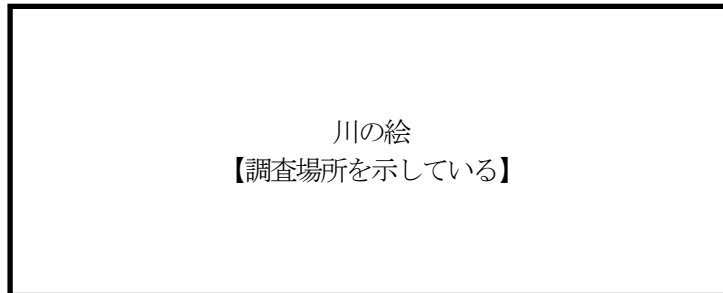
## 1. 調べたきっかけ

1学期に〇〇川の生き物を採って調べて、たくさん生き物がいることは分かった。でも、家の人から川が昔よりも汚くなっていることを聞いた。だから、今どれくらい汚れているのか知りたくなりました。

## 2. 調べる方法

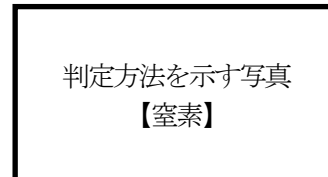
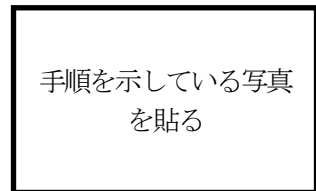
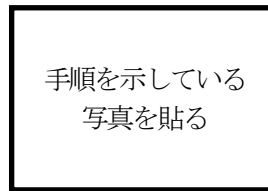
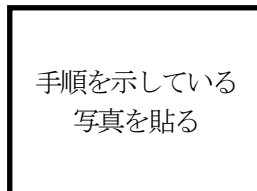
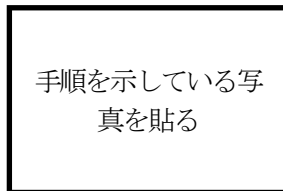
だれにでも水の汚さが分かるように、パックテストで検査をしました。パックテストでは、CODと窒素を調べました。

場所 底生生物を調べた場所（2か所）



川の絵  
【調査場所を示している】

日時 6月〇日（〇）、6月〇日（〇）、6月〇日（〇） 10:30～11:15



## 3. 結果

## A地点

	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）
COD	3	3	3
窒素	1	1	1

## B地点

	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）	6月〇日（〇）
COD	5	5	5
窒素	2	2	2

A地点では、CODの結果は3、窒素の結果は1だった。

B地点では、CODの結果は5、窒素の結果は2だった。

## 4. 考察

このことから、A地点とB地点を比べると、B地点の方が汚れているということが分かる。

それは、B地点の場所は、家が多くて、生活排水が川に流れているところもあった。だから、生活排水によって、川は汚されているのだと考える。

よって、B地点の生き物は、A地点に比べて棲みにくく、底生生物も得点の低い生き物がたくさん見つかったのだと思う

※児童が模造紙に書いて発表するためのまと

様式 6.5

[学校部門]

[実施箇所位置図の記載例]

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
27-00-00	〇〇に流入する〇〇川の河川環境学習	〇〇市立〇〇小学校 校長 〇〇 〇〇

主な実施箇所 〇〇水系〇〇川 (〇〇県〇〇市〇〇〇〇町〇〇)

※総合的な学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。  
(縮尺は1/50万～1/100万程度)



※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置を記入して下さい。

助成事業の主な実施箇所



## 8. 助成事業でよくある質問

本手引きでは、助成事業の実施に関わる諸手続、提出書類等について平易に記載しました。ここでは、助成事業の実施等に際して、これまでによくいただいた質問とその回答について、以下に記しましたので参考にしてください。

**Q 1. 助成事業決定通知書が届きました、その中に「請書」の様式がありますがいつ提出するのでしょうか？**

<回答>

○応募申請された助成事業について、助成が決定しましたら助成事業決定通知書を送付しますので、承諾の場合は請書を提出していただきます。請書が提出されない場合は、助成の取り消しとして扱う場合もありますので注意してください。請書の提出期限につきましては、採択通知に同封した資料で確認して下さい。

なお、事情により事業の遂行が困難な場合は「辞退届」を提出していただくことになります。

**Q 2. 助成金の支払いの手続はどのようにすればよいのですか？**

<回答>

○助成金の支払いは、助成事業完了後の請求に基づき完了払いを原則としますが、状況により前金払いとすることができます。

○完了払い：事業完了後の実績報告書等（成果報告書および決算報告書等）の提出書類一式を審査してから、請求に基づき指定の口座に振り込みます。

○前金払い：事業の遂行上必要になった場合に、「請求書（前金払い）」を提出してください。内容を審査後、指定の口座に振り込みます。

学校部門については、**全額前金払いが可能です**。また、請求は4月30日迄とします。

**Q 3. 実績報告書等は、いつ提出すればよいのですか？**

<回答>

○助成事業が完了した日から30日以内、又は翌年の4月30日までに提出していただきます。

○助成事業が予定の期間内に完了しないとき、提出が遅れる場合は「事故届」を提出して、財団からの指示を受けてください。

○実績報告書の提出が遅れた場合、助成の取り消しや、次回の採択の対象から外れることがありますので、ご注意ください。

**Q 4. 助成金に関する決算報告書に添付する資料とはどのようなものですか？**

<回答>

○使用した内訳がわかる領収書等を、決算報告書の費目との対応がわかるようにA4版用紙に貼り付けて整理したものです。未払い金がある場合は、請求書、契約書をもって領収書に代えられます。報告時には原本とそのコピーを送付してください。原本は審査終了後、「河川基金助成事業費用」と捺印して「河川基金助成事業完了に伴う額の確定通知書」と合わせて返送いたします。

また、領収書等は「助成対象金額」に関係するもののみを添付してください。助成対象金額を上回る部分の領収書等の添付は不要です。

詳しくは「3.4 助成金に関する決算報告書」を参考にしてください。

**Q 5. 助成金に関する決算報告書（様式6・4）の領収書の枚数が多い場合の整理の方法を教えてください。**

<回答>

○「3.4 助成金に関する決算報告書」に記載してあるとおりですが、次の2通りの方法が考えられますので参考にしてください。

①費用項目ごとに領収書を整理して、領収書に番号を記入したものを添付していただき、決算報告書の摘要欄に整理番号を記載すると容易に整理できると思います。

②さらに領収書が多い場合は、決算報告書の別紙として下記のような明細書を作成し、費用項目ごとの領収書に整理番号を記入したものを添付していただくと、検算、照合等が容易になると思います。

[領収書内訳明細書]記載例

費目番号 1

費目:人件費

内容:〇〇川体験活動

費目 No	番号	領収書整理番号		内容	金額	備考
		日	付			
1	1	1	— 1	体験活動講師謝金 〇〇 〇〇様	10,000 円	
			2015/6/5			
1	2	1	— 2	体験活動補助アルバイト代 〇〇 〇〇様	5,000 円	
			2015/6/5			
1	3	1	— 3	体験活動補助アルバイト代 〇〇 〇〇様	5,000 円	
			2015/6/5			
					円	
小計					20,000 円	

Q 6. 河川財団本部が東京で開催する成果発表会への参加のための交通費等に助成金を当ててもいいのでしょうか？

<回答>

○学校部門の助成事業者については、「川づくり団体全国事例発表会」および「河川教育研究交流会」への参加者、1助成事業あたり1名の交通費の半額（最大2万円迄）を別途支給しますので、発表会の参加募集開始時にお申し込みください。

Q 7. 人件費の支払いは、領収書ではだめでしょうか。

<回答>

○これまで、アルバイト等の人件費については、領収書の提出により決算報告を認めてきました。適切に対応している事業者の方がいる一方で、近年、領収書に記名のないものや支払いの相手方に人件費が支払われていないと考えられるケースが散見されるようになってきました。

こうした実態を踏まえて、助成金を適正に執行するため、平成25年度の決算からは、人件費の支出は、金融機関への振込を証明する資料（通帳の引き落とし部分のコピー等）のみを認めることとしましたので、ご理解ご協力をいただくようお願いいたします。

なお、人件費の内訳が分かる資料を別途提出してください（一式計上ではなく、単価×人数等の資料の提出が必要となります）

9. 実績報告書等の提出先および問合せ先は、下記のとおりです。

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1 1-9  
住友生命日本橋小伝馬町ビル  
公益財団法人 河川財団 基金事業部  
：堀部、矢野、橋本  
TEL 03-5847-8303  
FAX 03-5847-8309  
URL : <http://www.kasenseibikikin.jp>  
問合せ先 : [kikin-toi@kasen.or.jp](mailto:kikin-toi@kasen.or.jp)

◎河川財団までの略図



- 東京メトロ日比谷線 「小伝馬町駅」より徒歩0分
- 都営新宿線 「岩本町駅」より徒歩約8分
- 都営新宿線 「馬喰横山駅」より徒歩約7分
- JR 横須賀・総武快速線 「新日本橋駅」より徒歩約5分
- JR 横須賀・総武快速線 「馬喰町駅」より徒歩約5分

【様式 6. 2 に記入するキーワード一覧表】

部門	大分類	中分類	小分類
学校部門	調査・研究	環境教育	河川環境教育
			教育プログラムの策定
			中高生クラブ活動
			その他
	教育活動	体験活動系	川遊び
			川下り(ボート・カヌー等)
			その他
		水質調査系	パックテスト
			生物指標
			その他
		生物調査系	植物
			陸生昆虫
			水生昆虫
			魚類
			その他
		文化・歴史系	歴史
			文化
			水害
			水利用
			その他
		清掃活動	学校主体の活動
			他者主体の活動への参加
			その他
その他			

# 河川整備基金助成規程

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この規程は、公益財団法人河川財団(以下「財団」という。)河川整備基金(以下「基金」という。)の運用益による助成事業の実施に関し必要な事項を定め、事業の適正な実施を図ることを目的とする。

## 第2章 助成対象者の決定と助成金の交付

### (申請手続)

第2条 助成を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、募集に先立って理事会の議決により別に定める河川整備基金助成事業募集要項(以下「募集要項」という。)の定めるところにより、申請書を財団に提出しなければならない。

2 申請者は、次の各号に掲げる事項を記載した助成申請書を提出しなければならない。

- (1)申請者の氏名又は名称及び住所
- (2)助成金の交付を受けようとする事業の目的及び内容
- (3)助成金の交付を受けようとする事業の完了の予定期日その他事業の遂行に関する計画
- (4)交付を受けようとする助成金の額及びその算出の基礎

3 前項の助成申請書には、次の各号に掲げる資料を添付しなければならない。

- (1)申請者の業績に関する資料
- (2)助成金の交付を受けようとする事業に要する費用で、助成金によってまかなわれるもの以外のものの額の負担者及び負担方法を記載した資料
- (3)直近年度の貸借対照表及び収支計算書その他の申請者の資力及び信用に関する資料
- (4)その他理事長が必要と認める資料

### (申請内容の調査)

第3条 財団は、助成の申請があったときは、当該申請に係る書類の審査により、事業の目的及び内容が適正であるかどうか、金額の算定に誤りがないかどうか等を調査するものとする。

### (助成対象事業の決定)

第4条 助成対象事業は、前条の規定による調査を行った後、別に定める河川整備基金助成事業に係る選考委員会(以下「選考委員会」という。)の審査及び選考を経て、理事会が決定する。

2 前項に規定する選考委員会の審査及び選考は、募集要項に定める採択基準に基づき行うものとする。

### (助成金額の決定)

第5条 助成金額は、この規程に則り、理事会が決定する。

### (交付の条件)

第6条 財団は、助成の決定をするときは、助成の目的を達成するために必要な条件を付するものとする。

### (決定の通知)

第7条 財団は、助成の決定をしたときは、その決定の内容及びこれに付した条件を申請者に通知するものとする。

### (事情変更による決定の取消等)

第8条 財団は、助成の決定をした場合において、天変地異その他の事業の変更により助成事業の全部または一部を継続する必要がなくなったとき又は助成事業を行う者(以下「助成事業者」という。)が助成事業を遂行することができなくなったとき(助成事業者の責に帰すべき事情によるときを除く。)は、助成の決定の全部又は一部を取り消し、又はその決定の内容若しくはこれに付した条件を変更することができる。ただし、助成事業のうちすでに経過した期間に係る部分については、この限りではない。

2 前条の規定は、前項の規定による取消等をした場合について準用する。

(状況報告)

第9条 財団は、必要に応じ、助成事業者から助成事業の遂行状況その他助成金の執行に関し必要な事項について報告させるものとする。

(実績報告)

第10条 財団は、助成事業者が助成事業を完了したとき(助成事業を廃止したときを含む。)は、助成事業者から助成事業の成果を記載した実績報告書に必要な書類を添付の上提出させるものとする。

(助成金の額の確定等)

第11条 財団は、前条の実績報告書を受領したときは、書類の審査等により、その報告に係る助成事業の成果が助成の決定の内容及びこれに付した条件に適合するものであるかどうかを調査し、適合すると認めるときは、交付すべき助成金の額を確定し、当該助成事業者に通知するものとする。

2 財団は、助成事業者に交付すべき助成金の額を確定した場合において、すでにその額を超える助成金が交付されているときは、期限を定めて、その返還を請求するものとする。

(助成の取消)

第12条 財団は、助成事業者が助成金の他の用途への使用をし、その他助成事業に関して助成の決定の内容及びこれに付した条件に違反したときは、助成の決定の全部又は一部を取り消すことができる。

2 前項の規定は、助成事業について交付すべき助成金の額の確定があった後においても適用があるものとする。

3 第7条の規定は、第1項の規定による取消をした場合について準用する。

(返還)

第13条 財団は、助成金の交付の決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消に係る部分に関し、すでに助成金が交付されているときは、期限を定めて、その返還を請求するものとする。

(加算金)

第14条 財団は、第12条第1項の規定による取消に関し、助成金の返還を請求したときは、助成事業者から助成金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、当該助成金の額(その一部を納付した場合におけるその後の期間については、既納額を控除した額)につき年10.95%の割合で計算した加算金を納付させるものとする。

2 前項の年当たりの割合は、閏年の日を含む期間についても、365日当たりの割合とする。

3 第1項の規定により加算金を納付させる場合において、助成事業の納付した金額が返還すべき助成金の額に達するまでは、その納付金額は、まず当該返還をすべき助成金の額に充てられたものとする。

(延滞金)

第15条 財団は、助成事業者が助成金の返還の請求を受け、これを納期日までに納付しなかったときは、納期日の翌日から納付の日までの日数に応じ、その未納付額につき年10.95%の割合で計算した延滞金を財団に納付させるものとする。

2 前条第2項の規定は、第1項の延滞金の年当たりの割合について準用する。

(改廃)

第16条 この規程の改廃は、理事会の議決により行う。

附則

この規程は、平成25年4月1日から適用する。

# 河川基金 ロゴマーク表示例

## ■ 縦タイス (カラー)



【カラー仕様】

	C=100+M=20
	C=50+Y=5
	K=0

# 河川基金

## コンセプト

- ・ 人の手により河川が健全に維持されるイメージを表現
- ・ しずくの「まつげ」は「川」の字をイメージ

## バリエーション

### ■ 縦タイス (モノクロ)

チラシ等：27.5 mm以上  
ポスター：55 mm以上

チラシ等：35 mm以上  
ポスター：70 mm以上



河川基金

【モノクロ仕様】

	K=90
	K=40
	K=0

### ■ 横タイス (カラー)



河川基金

### ■ 横タイス (モノクロ)

チラシ等：27.5 mm以上  
ポスター：100 mm以上

チラシ等：15 mm以上  
ポスター：55 mm以上



河川基金

## 規定と使用例

- 白地はかならず設けてください。 ■ 規定のサイズ以上の大きさにしてください (比率の変更をしないでください)。
- 指定された色やデザインを改変しないでください (線の太さも変更しないでください)。

### ■ チラシ・パンフレット等 (物品貼付用シールも含む)



河川基金 公益財団法人河川財団による  
河川基金の助成を受けています。

チラシ等：12pt以上

シールにする場合は、右図のように背景色を設けて構いません。



河川基金

チラシ等：35 mm以上

### ■ ポスター用



# 河川基金

公益財団法人河川財団  
による河川基金の助成  
を受けています。

ポスター：24pt以上

---

## 河川基金助成事業実施の手引き

---

平成28年4月発行

編集・発行 公益財団法人 河川財団  
基金事業部

東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9

住友生命日本橋小伝馬町ビル 2階

TEL 03-5847-8303

FAX 03-5847-8309

---